ヲ禁ス

第五條　免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通リ免許稅ヲ納ムヘシ

一　職獵稅　　金壹圓

一　遊獵稅　　金拾圓

第六條　水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ內務省中內務省トアルハ十四年第百五拾號ヲ以テ警視廳ト改正セヲルヘシ其他ハ該地方官廳ニ屆出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルヲ要ス

第七條　左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ

一　拾六歲未滿ノ者

一　白痴風癲等ノ者

一　故ナク弓筒銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條　左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス

一　都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一　銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一　禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃武庭ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一　作物植付ケアル田畑內或ハ社寺人家等ノ擔內

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條　獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用ユルヲ禁ス

但開拓使管內ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用ユルヲ得ヘシ

第十條　銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ內務省ヘ屆出ヘシ

第十一條　日沒ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條　凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ攜帶スヘシ出獵中警察官吏區戶長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條　地主其所有地內ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條　凡テ一期內再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條　銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五拾圓ノ割金ヲ科シ免狀返上ケ其期內銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條　總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證跡ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條　第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○彈藥雷管賣買手續

○太政官第拾壹號　（明治十一年五月二十四日）

銃獵免許ノ者及有害ノ鳥獸威シ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買手續左ノ通相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及有害ノ鳥獸威シ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハントシ欲スル時ハ其免狀若クハ免許證ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルコトヲ證スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許證ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照シ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々其管轄廳（東京ハ警視本署）ヘ屆出ツヘシ

西洋形獵銃用　彈藥（散彈ハトロンノ類）　貳千發

同上用　雷管　四千粒

火繩銃用　火藥　壹貫目

室內銃用　雷管　壹萬粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハントシ欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

○獵獵願書記載方

○第貳百七拾七號　（明治八年十一月十七日）

和銃所持ノ者追々獵獵願出候處右ハ姓名等齟齬臺牒ニ適當不致自然官ノ手數ヲ生シ從テ人民空シク往復ニ時日ヲ費シ候者勘カラス畢竟明治五壬申年檢印以降他ヨリ讓受等ノ者幷檢印相受候節之舊名記載無之ニ付右等之如キ不都合ニ立至リ候條向後總テ何年何月中願之上何郡何區何村又ハ當村何ノ誰ヨリ讓受等ノ旨且舊名ハ姓名ノ肩ニ書シ玉目等篤ト取糺實際ヲ相認メ可願出此旨屹度相達候事

但檢印相受候節ト今日ノ住居ト異ニスル等ノ如キモ總テ願書ニ記載スヘシ

○獵獵禁止ノ場所制札繩張又ハ假圖設置

○乙第貳號　（明治十年一月十日）

各區正副區長

鳥獸獵之儀ニ付テハ明治六年以來追々布達ノ趣モ有之免許地等爲取調候處右ハ取消更ニ明治七年太政官第百貳拾貳號公布規則中第十六條ヲ除ノ外公則之通可相心得抑銃獵ハ人命ニ關シ候儀ニテ最注意シ各自所有地ニ至ル迄禁獵ノ場所ハ各地毎ニ制札

可相樹之處中ニハ等閑ニ致置或ハ一制札ヲ以一村禁獵抔ト相心得候村々モ有之哉ニ相聞夫レカ爲終ニ大害ヲ生シ候樣ニテハ不相濟候條區戶長ニ於テモ一層注意シ地券所有者其他池沼等請負候者ニ至ル迄他人之銃獵ニ差支アル向ハ公則第十三條之通制札ヲ建其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ設置候樣懇篤敎示可致此旨更ニ相達候事

但制札相建候箇所々々取調副區長ニテ取纏本年一月限リ所管本支廳第二課ヘ可差出事

（乙第貳號參考）

○丙第拾三號　（明治十年六月二十二日）

正副區戶長

縣廳本年乙第貳號達之通銃獵禁制ノ場所調書追々差出有之處爾后一村之畧圖ヲ整調田畑山林原野其他ノ各種ヲ色別シ禁獵ノ箇所ハ朱黑點ヲ環注シ右調書ニ添來ル七月十五日限リ可差出此旨相達候事

但調書ノ義本年分已ニ差出濟ノ向ハ圖面ノミ差出候義ト可心得事

○他府縣ノ免許ヲ受ケ獵銃買入等屆出

○乙第五號　（明治十六年一月十九日）

他府縣ノ免許ヲ受ケ獵銃ヲ買入レ或ハ讓リ受ケ若クハ改造セシ者ハ銃砲ノ種類玉目等ヲ評記シ其免許ヲ受ケタル官廳ノ指令寫ヲ添ヘ買取讓受又ハ改造セシ日ヨリ二十

日以內所管警察署へ可屆出此旨布達候事

○御獵場中鳥獵禁止

○乙第三號　（明治十七年二月十二日）

東茨城郡千波湖近傍左ノ村々別紙圖面黑點區域內今般御獵場ト被定候ニ付自今右區域內ニ於テ人民ノ鳥獵ヲ禁止シ就中千波湖ハ魚漁ヲモ禁止候條此旨布達候事

但シ區域內ニ於テハ放銃一切禁止候儀ト相心得ヘシ

御獵場村名

東茨城郡常盤村　見川村　小吹村　笠原新田　千波村

米澤村　吉田村　（圖面ハ畧ス）

○威銃免許願書式

○乙第九號　（明治十七年二月二十三日）

有害ノ鳥獸防禦ノ爲メ威銃免許ヲ受ケントスル者ハ自今別紙之通相心得出願スヘシ此旨布達候事

威銃免許願

何國何郡何村町何番地

士族或ハ平民　何誰

一和洋銃何挺　之

何年何ケ月

右ハ私(所有)(小作)(假受)田、畑、林、地鳥獣ノ被害不少ニ付來ル何月ヨリ何月迄何ヶ月間威銃御許可被成下度依テ別紙被害地反別及植物鳥獣名調書幷圖面相添此段奉願候也

年　月　日

右　何之誰

郡長　宛

前書之通願出候ニ付事實取調候處相違無之ニ付進達候也

年　月　日

戸長　何之誰

被害地反別及植物鳥獣名調書

何國何郡町村何番

字何

一田何反何畝歩

是ハ何月上(中)(下)旬(早)(中)(晩)稲或ハ陸稲播種爾後何月間何々鳥獣害ヲ爲ス、又ハ結實ノ候何月ヨリ收獲ノ候何月迄何々鳥獣害ヲ爲スノ類都テ植物及鳥獣名幷被害ノ季節等ヲ詳記スヘシ

〃

一　何反何畝歩

是ハ何月上(中)(下)旬何々播種以下〃上

〃

一林何反何畝歩

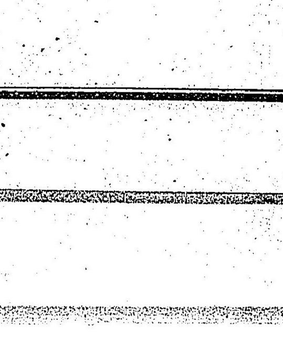
是ハ何月上(中)(下)旬ヨリ天蠶飼育或ハ(杉)(檜)苗等播種以下〃上

以下如是一筆限記載スヘシ

右之通候也

年　月　日

何之誰



南私林

何番

東田

林何反何畝歩

何々播種

西畑

北官林

此圖面ハ可成四隣ノ景況ヲ摸寫スヘシ

南私林

何番

東田

林何反何畝歩

何々播種

西畑

北山

○第十七章　驛遞

㊀第一款　郵便

○丙第貳拾壹號（明治十年七月六日）

㊀飛信遞送區戶長注意ノ抄錄

諸官省各府縣或ハ各地鎭臺營所ニ於テ非常ノ際至急ノ信報ヲ要シ候爲メ明治七年中飛信遞送規則御發行相成候ニ付テハ豫テ郵便取扱役ヨリ沿道驛村區戶長ヘ及協議候儀モ有之管然ルニ右規則ノ儀ハ一般公布不相成ヨリ自然郵便取扱役ノ協議ニ疑惑ヲ生シ候儀モ可有之ニ付該規則中區戶長ニ於テ注意可致廉別紙抄錄ノ通ニ候條不都合無之樣可取計此旨相達候事

飛信遞送規則抄錄

第六　項

一　渡船場等夜越無之地ハ兼テ其渡守及ヒ其地ノ戶長等ヘ約束致シ置其機ニ當リ差支無之樣致シ置クヘシ

第九　項

一　途中ニ於テ脚夫足痛等ノ變アリテ飛走致シ難キ時ハ沿途ノ町村戶長ヘ申入レ至急代リ脚夫ヲ出タサセ繼立ヘキ旨脚夫ヘ申渡シ且兼テ沿途ノ戶長等ヘ其旨約束致シ置クヘシ

正副區戶長

○丙第百貳拾四號（明治十年十二月二十一日）

㊀郵便物配達差支ヱ戶長役場ヘ申出ノ節指示

郵便物配達之際宛名之者無之歟或ハ轉住等ニ係リ配達方差支取調方其役場ヘ申出ルトキハ其需ニ應シ可成速ニ取調該郵便ニ附箋又ハ明瞭ニ指示シ候樣可致此旨相達候事

戶長

十六年六月甲第一號十九年三月甲第三十二號年三月令甲第廿六號改正前ノ面除

○地方郵便

○丙第八拾四號　（明治十五年十二月二十八日）

管内地方郵便特別方法驛遞局ヘ稟議之上別紙ノ通相定メ來十六年一月二日ヨリ施行候條此旨布達候事

約束郵便規則

第一條

一　左ニ記載スル公用郵便物ハ一管内往復ヲ限リ郵便切手ヲ貼付セサルモノトス

○第一節

一縣廳
一警察署
一監獄署
一郡役所
一右廳衙ニ屬スル廳衙ノ間互ニ往復スルモノ
一右廳衙ノ吏員郡長同書記及雇
一縣立學校
一諸勸業場事務所
一右裁判所縣立諸學校ノ吏員

○第二節

一戸長役場
一縣會
一常置委員會
一戸長縣會議員常置委員

第二條

一第一條ニ掲載スルモノヽ外人民ヨリ縣廳郡役所ヘ差出ス諸願伺届等ノ書類ハ總テ郵便切手ヲ貼付スルモノトス

第三條

一第一條ニ掲載スル公用郵便物即チ郵便切手ヲ貼付セサルモノト雖モ書留手數料別配達料ハ切手ヲ貼付シ前納スルニ限ルモノトス

第四條

一第一條ニ掲載スル公用郵便物ハ壹箇毎ニ表面ニ公用ノ二字ヲ朱記シ郵便局又ハ郵便函ニ差出スヘシ然ルトキハ公用ノ文字ヲ目的トシ郵便局於テ稅濟ノ印ヲ捺押シ遞送又ハ配達スルモノトス

第五條

一第一條ニ掲載スル公用郵便物ハ廳衙名ヲ記シ或ハ官名役名及其氏名ヲ併記シ又

ハ廳術名ト課名若シクハ係名ヲ必ス併記スルモノトス

第六條

一　郵便物ニ公用ノ文字朱記セサル歟或ハ第五條ノ記載方ヲナサヽルモノハ一般郵便物同樣未納稅ノ例ヲ以切手ヲ貼付シ收稅セラルヽニ依リ一層注意スヘシ

第七條

一　公用郵便物ノ逓送及ヒ集配（郵便函ヲ開キ信書ヲ集メ或ハ配達スルヲ云）方ハ一般郵便物ト併セテ之ヲ爲スモノトス

第八條

一　前條々ニ揭載スル他ノ郵便物ハ總テ郵便規則ニ依ルヘシ

○約束郵便取扱手續

○乙第七拾三號（明治十八年七月八日）

郡役所
戸長役場（東茨城郡ヲ除ク）

約束郵便取扱手續別紙之通更正候條此旨相達候事

約束郵便取扱手續

第一條　管内約束郵便規則（十五年乙番外及十八年甲第六拾壹號布達ニ列載セル間ニ件復スルモノヽ）ニ據リ差出スモノハ共發遣簿ヲ設備シ豫メ各種（第一第二第四種

ヲ云フ）部數ヲ置キ記載スヘシ

第二條　郵便物ヲ郵便局又ハ函場ニ差出サントスルトキハ種類毎ニ其個數及ヒ量目ヲ精査シ各其計數ヲ記載シ置クヘシ

第三條　發遣セシ郵便物ノ個數量目ハ後年度ノ諸約上ニ於テ專ラ稅額ニ關係スルヲ以豫メ注意シ可成丈ケ數件又ハ數個ヲ合セ一封（事ノ緩ナルモノハ翌日ニ後リテ取纏メ合封スルヲ要ス）トナシ精々個數減省スヘシ

但シ異種類ノモノハ合封スヘカラス

第四條　前條ノ個數及ヒ量目ハ一ケ月毎ニ計査シ左式ノ如ク各戸長役場ハ翌月五日限リ郡役所ヘ報告シ郡役所ニ於テハ（各役場ノ分ヲ取纏メ）翌月十日限リ縣廳庶務課ヘ報告スヘシ

第五條　派出先ニ於テ發遣セシモノハ歸着ノ際（派出逓月ニ渉ルトキハ翌月五日迄ニ報告セシム）報告セシメ前條ノ報告ニ合算スルモノトス

（報告表式）

何月分約束郵便報告表

郡役所分					
種類	個數	量目	戸長役場分	個數	量目

第一	幾千幾千			
第三	同	同	同	同
第四	同	同	同	同

右之通ニ候條此段及御報告候也

年　月　日

縣廳庶務課宛

何郡役所

何月分約束郵便報告表

種類	個數量	目
第一	幾千幾、千幾千	夕
第三	同	同
第四	同	同

右之通ニ候條此段及御報告候也

何郡何村外何ヶ村聯合

戸長何某印

郡役所

戸長役場

年　月　日

何郡長宛

○貯金勸誘

○乙第拾四號（明治十九年二月五日）

貯金勸誘之儀ニ付テハ是迄屢々及諭達置候處尚未タ其利益ヲ熟知セサルモノ往々有之因テ今又一般ニ及告諭候條此際遍ク奬勵シ或ハ便宜ノ方法ヲ設クル等ハ郵便取扱役ト協議ヲ遂ケ精々實行ノ途相立候樣致スヘシ右相達候事

貯金告諭

凡ソ人ノ生ヲ營ムハ謂ゆる心懸より肝要あるとなし一人身あれと身れ計を爲さゝるへからす家あれと家の計を爲さゝるへからす子孫あれと子孫の計をなさゝるへからす而して不虞の計老後の計亦豫かしめ爲さゝるへからす古人之を五計とす是を生計と云ふなり計とゝ乃ち心懸の謂なり人の富裕安樂に世を送るも畢竟此の心懸と勤むるよより貧窮困迫み身を苦しむるも畢竟此れ心懸と怠るよ在るのみ思ざるへけんや

爰ニ驛遞局ニ於テ貯金預リ之法を設けらるゝも人々をして此れ心懸を務めしめ其の福

証を保佑せしめんとせらるゝなり其方法よ至ては拾錢以上は何人よよらを預け積む事を得又何時を問はを拂戻を請求する事を得はしめ專ら微汝積み少汝累ね以て貯蓄へられんの爲め總て郵便局及ひ受取所に普く貯金預所をおはしめ又取扱人よ其預り拂ひの道を丁寧親切よなすへきよう達せらるゝも必竟富裕れ者よりは第一よ貧困れ者を奬勵して漸々に貯蓄せしめんとするに渉りて誠よ人民生計れ心懸をなすれ便よ供するよ外あらさるなり人民能く此意を領知一各々れ生業を勤め節儉と守り務めて餘贏と生一貯金よ預け置くよう心懸而一て各々れ福利を全ふ一夫れ便利れ良法を空ふせ一むるなかれ

右告諭候事

○第二款　里程標

○里程標柱建設概則

○乙第百三拾號（明治十八年十二月十一日）

縣廳ヨリ各村へノ距離里數ニ誤謬ノ向有之往々不都合不拵ニ付從前ノ起程標及道標ヲ廢止シ今般更ニ別紙概則ニ照準精密取調ヲ爲シ來ル十九年三月三十一日迄ニ各町村毎ニ町村標及ヒ町村界標分岐標ヲ建設シ里程調書ハ各戸長役場ニ於テ取纏メ届出ツヘシ

第一條　標柱建設概則

町村標ハ各町村揭示場又ハ隣町村中央等衆人ノ認メ易キ地ヲ撰ミ別紙略圖ニ照準建設スヘシ

但陸羽街道及ヒ東京ヨリ本縣街道ノ內明治九年中里程標建設シアル宿驛ノ如キハ該標ノ側ヲ以テ建設スヘシ

第二條　町村界標ハ別紙略圖ニ照準隣町村へ通スル往來筋ノ境界ニ建設スヘシ

但鄰町村へ通スル路線ト雖トモ耕作道ノ如キ一部落ノ通路ニ止マル小道ヘハ建設スルニ及ハス

第三條　郡界標ノ建設シアル町村界ヘハ別ニ第二條ノ町村界標ヲ建設スルニ及ハス

但縣廳及郡役所へ順路ノ路線ハ此限ニアラス

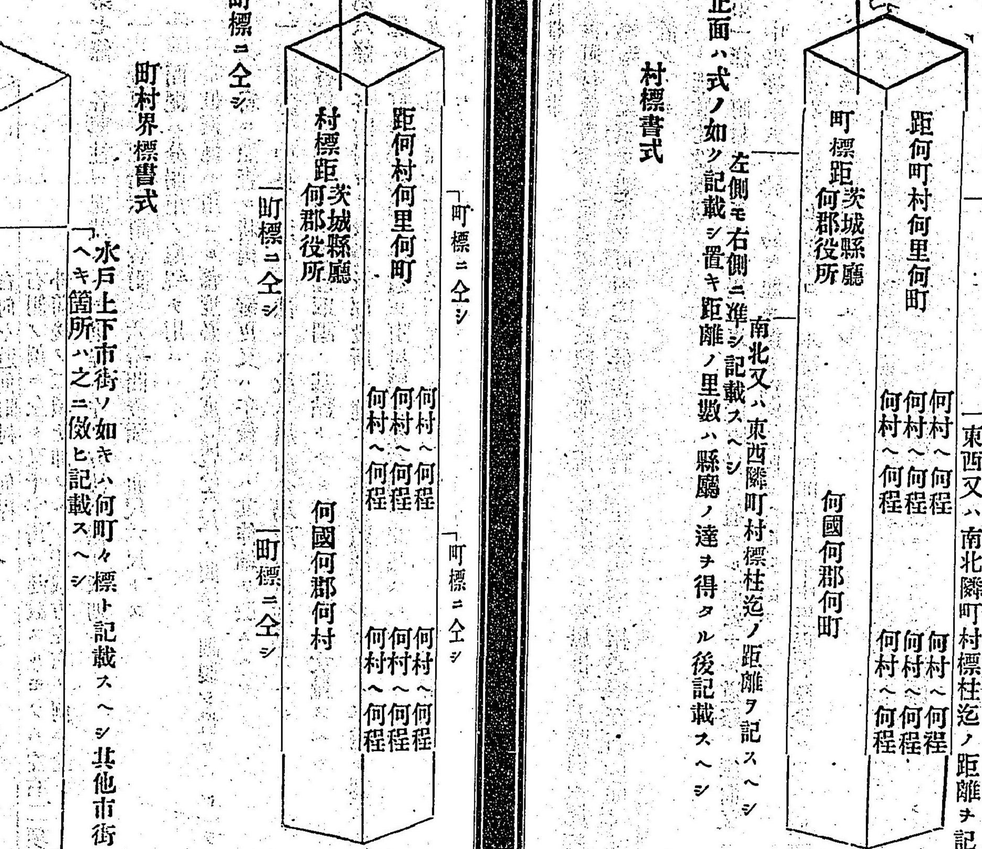
第四條　分岐標ハ別紙略圖ニ照準シ渾テ町村又ハ原野交通ノ路線兩岐ノ地ニ建設スヘシ

第五條　標柱ハ松杉其他適宜ノ木材ヲ使用シ町村標ハ五寸角地上八尺地ニ入ル二尺

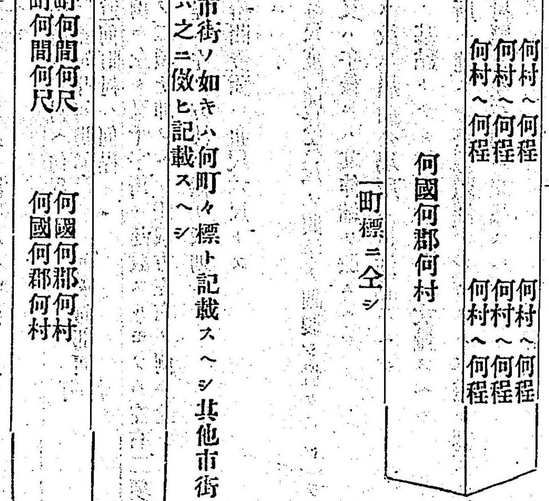
町村界及分岐標ハ四寸角地上六尺地ニ入ル貳尺堅固ニ建設スヘシ

第六條　各標柱ハ左ノ書式ニ準シ接續町村互ニ打合セ町村標迄ノ里程ヲ通算シテ記載スヘシ

町標書式



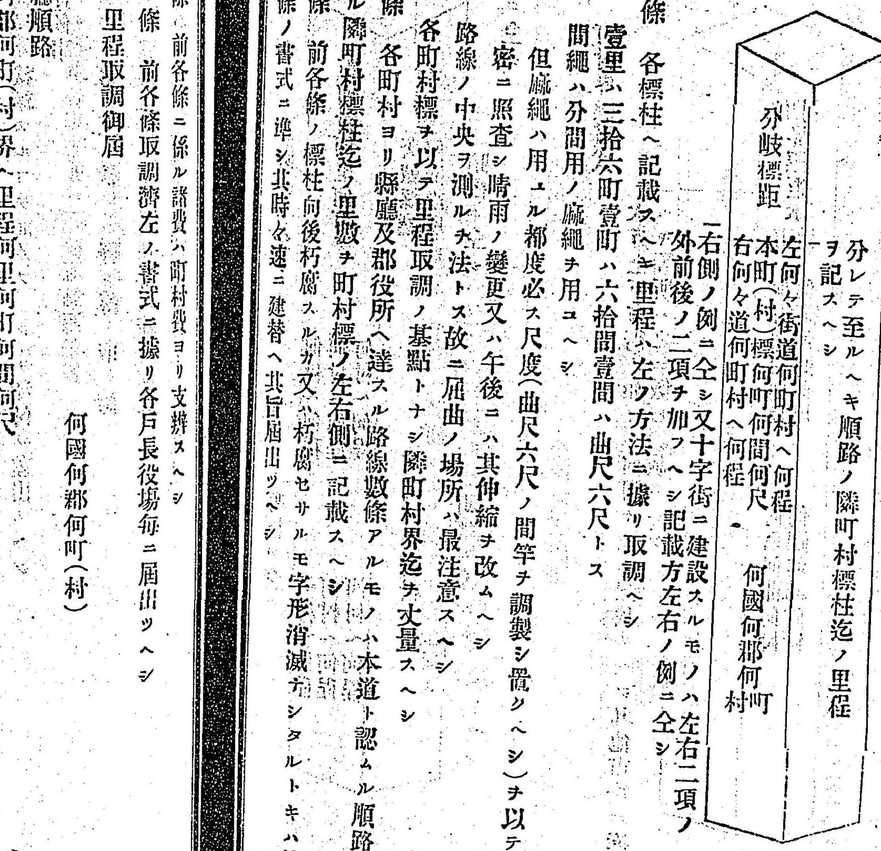
村標書式



町村界標書式

分岐標書式

分レテ至ルヘキ順路ノ隣町村標柱迄ノ里程
ヲ記スヘシ



一右側ノ例ニ仝シ又十字街ニ建設スルモノハ左右二項ノ外前後ノ二項ヲ加フヘシ記載方左右ノ例ニ仝シ

第七條 各標柱ヘ記載スヘキ里程ハ左ノ方法ニ據リ取調ヘシ

一 壹里ハ三拾六町壹町ハ六拾間壹間ハ曲尺六尺トス

一 間繩ハ分間用ノ麻繩ヲ用ユヘシ

但麻繩ハ用ユル都度必ス尺度(曲尺六尺ノ間竿ヲ調製シ置クヘシ)ヲ以テ綿密ニ照査シ晴雨ノ變更又ハ午後ニハ其伸縮ヲ改ムヘシ

一 路線ノ中央ヲ測ル法トス故ニ屈曲ノ場所ハ最注意スヘシ

一 各町村標ヲ以テ里程取調ノ基點トナシ隣町村界迄ヲ丈量スヘシ

第八條 各町村ヨリ縣廳及郡役所ヘ達スル路線數條アルモノハ本道ト認ムル順路ニ係ル隣町村標柱迄ノ里數ヲ町村標ノ左右側ニ記載スヘシ

第九條 前各條ノ標柱向後朽腐スルカ又ハ折損セサルモ字形消滅カシタルトキハ第六條ノ書式ニ準シ其時々速ニ建替ヘ其旨届出ツヘシ

第十條 前各條ニ係ル諸費ハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第十一條 前各條取調濟左ノ書式ニ據リ各戸長役場毎ニ届出ツヘシ

里程取調御届

何國何郡何町(村)

縣廳順路

一何郡何町(村)界ヘ里程何里何町何間何尺

何郡役所ヘ順路

一何郡何町(村)界ヘ里程何里何町何間何尺

四隣町(村)距離

一東 何(町村)標ヘ何里何町何間何尺
何(町村)標ヘ何里何町何間何尺

一西 同 上

一南 同 上

一北 同 上

記載方同上

何國何郡何町(村)

記載方同上

右聯合各町村里程取調候處相違無御坐候且町村標及町村界標分岐標ト雖モ記載ノ上取建濟ニ付此段御届申上候也

年　日　月

縣　令　宛

右

戸長　何　ノ　誰　印

（標柱建設例圖ハ署ス）

○乙第貳拾貳號　（明治十九年二月廿九日）

郡　役　所

戸　長　役　場

各町村距離里程取調且ツ標柱取建可届出旨明治十八年十二月乙第百二拾號ヲ以テ相達候處右ハ聯合限リ標柱建設ノ位置及ヒ路線ヲ擧示セル署圖（其路線ノ最端ニハ何郡何村ニ接續スルヿヲ記入スヘシ）ヲ添付シ差出スヘシ

右相達候事

○第三款　驛傳取締

○驛傳組合區書並ニ驛傳取締所位置

○茨城縣令甲第廿九號　（明治十九年十一月五日）

明治十八年（十六月）甲第五拾六號布達驛傳營業組合區書並ニ驛傳營業取締所ノ位置別冊之通改定ス

但取締所位置ノ町村ヲ以驛傳場ト定ム

驛傳組合區書並ニ驛傳取締所位置

○東茨城郡

水戸上市組合　　水戸上市取締所

水戸上市　常盤村

見川村戸長役場聯合各村

鯉淵村同

水戸下市組合　　水戸下市取締所

水戸下市

吉沼村戸長役場聯合各村

堅倉組合　　堅倉取締所

堅倉村戸長役場聯合各村

小川村同　與澤村同

石塚組合　　石塚取締所

石塚村戸長役場聯合各村

上青山村同　飯富村同　上圷村同

廿年令甲第十八號改正ノ面

上阿野澤村同
大貫組合
大貫村　磯濱村
下大野村戸長役場聯合各村
○西茨城郡
笠間組合
笠間町
下市原村戸長役場聯合各村
岩間下郷組合
岩間下郷戸長役場聯合各村
羽黒組合
西小塙村戸長役場聯合各村
○那珂郡
湊組合
湊村　平磯村
馬渡村戸長役場聯合各村

大貫取締所
大塙村同　中石崎村同
笠間取締所
大橋村同　徳蔵村同　寺崎村同
岩間下郷取締所
平町村同　湯崎村同　北吉原村同
羽黒取締所
但加茂部村西小塙村ヲ以テ之ニ充ツ
翁岡村同　富岡村同　稲田村同
湊取締所
勝倉村同　田彦村同

石神外宿組合
石神外宿戸長役場聯合各村
菅谷村同　中河田村同
大宮組合
大宮村戸長役場聯合各村
上大賀村同　山方村同
野口組合
野口村戸長役場聯合各村
高部村同
○久慈郡
太田組合
太田町
久慈村戸長役場聯合各村
上河合村同　大里村同
町田村同　天下野村同
大子組合
大子村戸長役場聯合各村

石神外宿取締所
村松村同　額田北郷同
門部村同
大宮取締所
下江戸村同　下大賀村同
長岩村同　上小瀬村同
野口取締所
大岩村同
太田取締所
高野村同
下圏井村同
瓜連村同
東野村同
大和田村同
花房村同
馬場村同
龜作村同　幡村同
中利員村同　松平村同
里野宮村同　辰ノ口村同
大子取締所
諸澤村同　西金村同　頃藤村同

袋田村同　小生瀬村同
大中組合
大中村戸長役場聯合各村
○多賀郡
助川組合
助川村戸長役場聯合各村
田尻村同　川尻村同
高萩組合
安良川村戸長役場聯合各村
豐田村同　大野村同
神岡組合
神岡下村戸長役場聯合各村
平潟村
○鹿嶋郡
鉾田組合
鉾田村戸長役場聯合各村
縦山村同　汲上村同

初原村同　下野宮村同　町付村同
東河內村同　大中取締所
上深荻村同
助川取締所
大沼村同　下孫村同　油繩子村同
高萩取締所
友部村同　下手綱村同　上櫻井村同
神岡取締所
中妻村同　但神岡上村神岡下村ヲ以テ之ニ充ツ
關本上村同　大津村
鉾田取締所
成田村同　海老澤村同　息栖村同
札村同　武井村同

宮中組合
宮中村戸長役場聯合各村
粟生村同　賀村同
東下村
○行方郡
麻生組合
麻生村戸長役場聯合各村
築地村同　矢幡村同
玉造組合
玉造村戸長役場聯合各村
兩宿村同
○新治郡
土浦組合
土浦町
眞鍋村戸長役場聯合各村
下稻吉村同　常名村同
上ノ室村同　粟原村同

和村同　猿田村同　大船津村同
知手村同　柳川新田同　矢田部村
宮中取締所
麻生取締所
牛堀村同　潮來村同
山田村同　延方村
玉造取締所
井上村同　串挽村同　八木蒔村同
土浦取締所
田村同　加茂村同　西成井村同
藤澤村同　高岡村同　中根村同
荻間村同　大曾根村同　西田中村同

石岡組合
石岡町
市川村戸長役場聯合各村
高濱村同　下土田村同
栃岡組合
栃岡村戸長役場聯合各村
小幡村同　月岡村同
○信太郡
江戸崎組合
江戸崎町　浮嶋村
藤ヶ仙村戸長役場聯合各村
○河内郡　仝
阿波村同　伊佐部村同
木原組合
木原村戸長役場聯合各村
奥原村同　下高津村同
○河内郡

宍倉村同　田伏村同　上玉里村同
中志筑村同　山崎村同
栃岡取締所
瓦谷村同　大増村同　上曾村同
下林村同
江戸崎取締所

仝
古渡村同　高田村同　小野村同
木原取締所
大谷村同　君嶋村同　嶋津村同

仝

牛久組合
牛久村戸長役場聯合各村
○信太郡　仝
中村同　荒川沖村同
龍ヶ崎組合
龍ヶ崎町戸長役場聯合各村
柴崎村同　源清田村同
○筑波郡
谷田部組合
谷田部町戸長役場聯合各村
沼崎村同
小張組合
板橋村戸長役場聯合各村
吉川村同
北條組合
北條村戸長役場聯合各村
中菅間村同　沼田村同

若柴村同　高崎村同　赤塚村同
牛久取締所

八代村同　大徳村同　生板村同
龍ヶ崎取締所
上根本村同

嶋名村同　福岡村同　上郷村同
谷田部取締所

城中村同　豊浦村同　下嶋村同
小張取締所

小高村同　作谷村同　小田村同
北條取締所
吉沼村同

○眞壁郡
下館組合
下館町
成田村戸長役場聯合各村
東榎生村同　吉間村同
下妻町
下妻組合
大寶村戸長役場聯合各村
高崎村同　高津村同
眞壁町戸長役場聯合町村
長岡村同　木木村同
○結城郡
結城組合
結城町戸長役場聯合町村
佐野村同　水口村同
○豐田郡　貝谷村同

下館取締所
大關村同　灰塚村同　菅谷村同
下星谷村同　門井村同
下妻取締所
梶内村同　關本上町村同　黒駒村同
眞壁取締所
海老ヶ嶋村同　宮後村同　塙世村同
結城取締所
久保田村同　上山川村同　田間村同

○豐田郡
本宗道組合
本宗道村戸長役場聯合各村
○岡田郡　仝　仝
菅樂村同　東蕗田村同
水海道組合
水海道驛
相野谷村戸長役場聯合各村
○岡田郡　仝
豐岡村同　大生郷村同
○北相馬郡
取手組合
取手驛戸長役場聯合各村
藤代宿同　高須村同
布川村同
野木崎組合
野木崎村戸長役場聯合各村

加養村同　本石下村同　新石下村同
仝
鴻ノ山村同　水海道取締所
三坂村同　上蛇村同

本宗道取締所
取手取締所
桑原村同　山王村同　清水村同
早尾村同　長沖村同　中谷村同
野木崎取締所
菅谷村同　内守谷村同　寺畑村同

守谷町村同　下高井村同

○猿嶋郡

境町組合

境町戸長役場聯合各村

諸川町同　谷貝町同　逆井村同　伏木村同　西泉田村同

○西葛飾郡　仝

幸主村同　小手指村同

岩井組合

岩井村戸長役場聯合各村

猫實村同　長谷村同

○西葛飾郡

古河組合

古河町戸長役場聯合町村

茶屋新田同

◎驛傳營業取締規則及細則

○甲第三號（明治十九年一月十五日）

明治十八年（六八月）甲第五拾五號布達驛傳營業取締規則及細則共別冊ノ通改正シ來ル

境町取締所

長須村同　生子村同　勘助新田同

矢作村同　沓掛村同

岩井取締所

釋迦村同　下大野村同　上邊見村同

古河取締所

二月十五日ヨリ施行ス

但明治十一年（二月）丁第三拾八號達同十五年（六月）乙第百五號布達族人宿取締規則同年乙第百拾三號布達中馬車人力車取締規則ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

驛傳取締規則

第一條　驛傳營業人トハ陸運受負人馬繼立旅人宿營業幷陸運稼業人ヲ云フ

第二條　驛傳營業人ハ縣廳指定ノ區畫ニ從ヒ組合ヲ立テ又指定ノ位置ニ驛傳取締所ヲ設クヘシ

但組合廣濶ニシテ取締所一ケ所ニテ差支ユルカ又ハ指定ノ區畫ニ據ル能ハサルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ノ裁定ヲ乞フヘシ

第三條　驛傳取締所ハ驛傳營業ノ取締ヲ爲シ傍驛傳營業ヲ爲スコトヲ得

但營業ヲ兼ルノ場合ニ於テハ其責任總テ一般營業人ト同樣タルヘシ

第四條　取締所ハ組合營業人ニ組合證票ヲ渡スヘシ

第五條　取締所ニハ驛傳取締人及副取締人各一名ヲ置クヘシ

但事務ノ都合ニ依リ取締人一名ヲ置クモ妨ケナシ

第六條　取締人及副取締人ハ組合及取締所ノ事務ヲ掌理スヘシ

第七條　組合ハ各種營業毎ニ一人又ハ二人ノ年行事ヲ置クヘシ

但其營業人僅少ナルトキハ他ノ年行事ヲシテ兼務セシムルモ妨ケナシ

第八條　年行事ハ取締人ノ指揮ヲ受ケ各種組合ノ業務ヲ弁理スヘシ

第九條　陸運受負又ハ人馬繼立ノ業ヲ營マントスルモノハ相當ノ身元保證金ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　驛傳營業人ハ組合ニ入ラスシテ營業スルコトヲ得ス

第十一條　驛傳營業人ニアラサルモノハ賃錢若クハ手數料等ヲ受ケ驛傳ノ業ヲ爲シ又ハ其紹介ヲ爲スヲ許サス

第十二條　組合外ノ地ニ至リ驛傳營業ヲ爲ストキハ其地ノ規則又ハ規約ニ從フヘシ

第十三條　驛傳營業人ハ總テ營業上ニ關スル事件ニ付テハ驛傳取締所ノ指揮ニ從フヘシ

第十四條　組合取締所ノ費用幷ニ取締人年行事ノ手當等ハ組合營業人ニ於テ一般ニ負擔スヘシ

但年行事ノ手當等ハ各種ノ組合ニテ負擔スルモ妨ケナシ

第十五條　驛傳營業人ハ旅客荷主ノ寄托又ハ雇役ヲ受ケクルトキハ猥リニ拒避スルヲ得ス

但陸運稼業人ハ人馬繼立營業者ノ呼出ヲ受クルトキ亦同シ

第十六條　驛傳營業人ハ左ノ諸項ヲ詳悉セル規約ヲ定メ縣廳ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

但認可濟ノ上ハ郡役所及所轄警察署ヘ屆出ヘシ

一　物貨運搬及行旅ノ便ヲ謀リ諸賃料ヲ一定スル事

一　取締所及組合費用幷ニ取締人年行事ノ手當等收支方法ノ事

一　貨物取扱及弁償ノ手續

一　違約者處分方法

一　組合會議ノ規程

一　營業者蓄積方法

一　前諸項ノ外營業上必要ノ事項ハ之ヲ掲クヘシ

第十七條　取締所並ニ組合營業人ハ第十六條組合規約ノ外隣驛取締所又ハ營業人ト貨物受授ノ規約ヲ定メ双方連印ノ上縣廳ヘ屆出ヘシ

第十八條　營業人組合證票ヲ毀損スルカ又ハ遺失スルトキハ更ニ申出證票ヲ受クヘシ非改氏名或ハ轉居スルトキ亦タ同シ

第十九條　組合證票ハ貸借スルコトヲ許サス若證票一覽セシト乞フモノアルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第二十條　自宅ニ在テ營業スルモノハ看板ヲ店頭ニ掲ケ道路ニ在テ營業スルモノハ

證票ヲ携帯スヘシ

第二十一條　各種營業人賃錢表荷物到達期限表旅籠料等旅客荷主ノ心得トナルヘキ條件ヲ總テ取締所ノ證印ヲ受ケ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第二十二條　驛傳營業人ハ組合中ニ定メタル定額外ノ賃錢又ハ料金ヲ請求スルコトヲ許サス

第二十三條　營業上ニ付家族又ハ雇人ト雖モ不都合ノ所爲アルトキハ該營業者其責メニ任スヘシ

第二十四條　陸運請負及人馬繼立營業ノ景況又ハ取締所ノ事務諸帳簿等ハ臨時官吏ヲシテ檢査セシムルコトアルヘシ

第二十五條　營業務ヲ行フニ際シ不審ノモノ或ハ不正ノ物品ト視認スルトキハ速ニ所轄警察署分署又ハ巡査派出所ヘ密告スヘシ

第二十六條　此取締規則第十條第十一條第十五條第十八條第二十條第二十一條第二十三條並細則第四十三條第四十四條第四十五條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十四條第五十八條第六十條第六十二條第六十三條第六十四條第六十六條第六十七條第七十三條第七十四條第七十九條第八十條第八十八條第九十二條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽ外營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

但細則第六十條ハ定限外ニ人ヲ乘載スル場合第六十四條ハ點燈セサル場合ニ限ルモノトス

驛傳取締細則

第一章　取締所及取締人心得

第一條　驛傳取締所ニハ何々驛傳取締所ト記載セル標札ヲ掲ケ夜間ハ燈ヲ點スヘシ

第二條　取締所ニハ業務上使用ノ印章ヲ製シ縣廳郡役所及警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條　取締人ハ各組合ノ營業ヲ監査シ不都合ノ所爲アルトキハ規則ニ據リ之ヲ處弁シ常ニ物價ノ高低ニ注意シ諸料錢ヲ均一ナラシメ旅客行通ノ安全ヲ計ルヘシ

第四條　取締所ハ組合營業人ノ族籍姓名職業幷牛馬車等ノ員數ヲ記帳シ置キ增減アル毎ニ加除訂正スヘシ

但六月十二月ノ現在員ヲ毎年一月七月ノ兩度縣廳ニ届出ヘシ

第五條　取締人ハ營業ニ關スル諸達書ヲ組合ヘ回達スヘシ

第六條　取締人ハ驛傳上ノ利害ニ關スル事件ニ付意見書ヲ縣廳ニ差出スコトヲ得

第七條　取締人ハ組合營業人ノ業務ニ關スル願届ニ連署スヘシ

但意見アルトキハ添申スルコトヲ得

第八條　取締人ハ組合規約中變更ヲ要スルコトアルトキハ通常會又ハ臨時會ヲ開キ

其決議ヲ取リ縣廳ヘ届出認可ヲ得ヘシト雖モ時機ニ依リ會議ノ議決ヲ須タス自己ノ意見ヲ以テ改正按ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受ケ組合中ニ達示スルコトヲ得

但此場合ニ於テハ所屬郡役所警察署分署ヘ届出ヘシ

第二章　取締人及年行事撰舉心得

第九條　正副取締人ハ組合中ニテ本籍店住ヲ定メ名望財産ヲ兼有スル者ヲ撰舉シ縣廳ノ認可ヲ受ケヘシ

但認可後ト雖モ縣廳ニ於テ不適當ト認ムルトキハ改撰セシムルカ又ハ特ニ縣廳ヨリ命スルコトアルヘシ

第十條　正副取締人ノ任期ハ二年トシ一年毎ニ其一人ヲ改撰スヘシ

但前任者ヲ再撰スルモ妨ケナシ

第十一條　撰舉法ハ總テ投票トス其投票多數ヲ得タル者ヲ當撰人事故アリ其撰ヲ辭スルトキハ順次多數ヲ得タル者ヲ採ル若シ投票同數ナレハ年長ヲ採リ同齢ナレハ鬮ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條　年行事ハ各種營業人中ニテ毎年一月互撰スヘシ其任期ハ一ケ年トス

但前任者ヲ再撰スルモ妨ケナシ

第十三條　取締人ハ各種年行事ニ於テ毎年一月各營業人中ヨリ撰舉シ又ハ年行事中ヨリ互撰スルモ妨ケナシ

但投票多數ヲ得カタキ場合ニ於テハ縣廳ノ指定ヲ乞フヘシ

第十四條　正副取締人ノ住所氏名ハ郡役所及所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ其改姓名或ハ轉居スルトキ亦同シ

第十五條　正副取締人更迭ノトキハ前任者取扱中ノ手續及金錢ノ收支等ヲ明瞭ニシ且目錄ヲ調製シ後任者ト受渡ノ順序ヲ了シ其旨連署所轄郡役所ヘ届出ヘシ

第三章　陸運受負心得

第十六條　身元保證金額ハ營業ノ多少ニ依リ等差アルヘシト雖モ七拾圓ヨリ減スルコトヲ得ス

但其金額三分ノ一ハ現金ヲ以テシ三分ノ二ハ地券又ハ公債證書ニ換フルコトヲ得

第十七條　荷物ハ左ノ區別ニ據リ取扱フヘシ其區分ハ荷主ノ望ニ據リ定ムヘキモノトス

一　特別運送

一　通常運送

第十八條　特別運送ノ貨物損害アルトキハ之ヲ辨償シ通常運送ノ貨物ハ其責メナキモノトス

第十九條　運賃ハ物質形狀量目ニ依リ之ヲ定ムヘシ

但特別貨物取扱手數料ハ別ニ相當ノ金額ヲ定ムヘシ

第二十條　運送物ニ添付スル送狀ニハ受取證ニ記載ノ物件量目其他必要ノ件ヲ左ノ各項ニ照準詳細記入スヘシ

但特別運送物ハ驛傳取締所ノ檢查ヲ受ケ取扱フヘシ

一　運送物（特別）（通常）ノ區別

二　物品ノ種類（特別運送物ハ其品名ヲ詳記スヘシ）

三　個數斤量

四　賃錢（前拂先拂爲替）ノ區分

五　回漕約定アルモノト約定ナキモノトノ區別（水路ヲ經過セサルモノニハ記載ヲ要セス）

六　發着雙方ノ官衙又ハ官吏ノ氏名其他荷主屆先住所氏名

七　前諸項ノ外運送物必要ノ事項

第廿一條　荷物ノ遞傳ハ丁寧速達ヲ旨トシ豫メ到達ノ期限ヲ定ムヘシ

第廿二條　貨物ノ荷造堅固ナラスト認ムルトキハ荷主ヲシテ改造セシムヘシ荷主其請求ニ應セサルトキハ遞傳ヲ辭スルコトヲ得

但受取タル後其改造ヲ要スルコトアルトキハ該受負者ニ於テ之ヲ改造スヘシ

第廿三條　危險物及濕濕物等ノ他物ヲ傷害スヘキモノハ別段ニ之ヲ運送シ普通ノ荷物ト混淆スヘカラス之ヲ藏置スルトキ亦タ注意スヘシ

但成規アルモノハ其成規ニ從フモノトス

第廿四條　前條ノ物品ヲ遞傳セントスルトキハ荷物ニ其旨ヲ記載セシムヘシ若シ荷主ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其遞傳ヲ辭スルコトヲ得

第廿五條　特別運送物ハ表包見易キ部分ヘ特別運送ト朱書スル歟又ハ木札ヲ付シ發送スヘシ

第廿六條　貨物ノ送達ヲ受負フトキハ荷主ヲシテ必ス添狀ヲ付セシメ其添狀ト物品ト照合シテ相違ナキニ於テハ受領証ヲ差出スヘシ

第廿七條　陸運受負所ニ於テ人馬繼立所ヲ經スシテ貨物ヲ送達スルヲ得ス

但通貨金銀珠玉寶器等及至急ヲ要スル場合ハ人夫又ハ飛脚ヲ雇役シ直達セシムルコトヲ得

第廿八條　通常運送物ニ損害弁償スルノ限ニアラスト雖モ該受負者ノ不注意ヨリ紛失損傷ヲ生シタルトキハ該取締所ニ於テ相當弁償ノ處分ヲ爲サシムヘシ

但シ處分方法ハ規約中ニ設ケ置クヘシ

第廿九條　貨物ヲ陸運ヨリ水運ニ移シ回漕スルトキハ明治八年第百八拾四號布告回漕貨物取扱條例ニ據リ取扱フヘシ尤此場合ニ於テハ水運ニ移スヘキ場所ノ該受負營業者其荷主ニ代リ船長（船主）ト特殊ノ約定ヲ爲シ該地驛傳取締人連署シ安全ニ

運送スル手續ヲナスヘシ

第二十條　前條ノ手續ヲ爲ストキハ回漕先其地ノ同業者又ハ驛傳取締所ヘ宛テ左ノ件々ヲ詳記シタル回漕狀ヲ其回漕物ト共ニ發スヘシ

一　物品ノ種類

一　個數及斤量

一　回漕運賃（前拂先拂爲替）ノ區別

一　船主ト約定ノ事項（事項トハ保險ヲ要スルト要セサル等ノ別ヲ云フ）

第卅一條　前條貨物着船受授ノ通報アルトキハ回漕狀ニ照ラシ檢査ノ上受取ルヘシ若シ增減漏脫アラハ荷主ニ通知シ協議ノ上相當價額ヲ定メ船主ニ要償ヲ求ムヘシ

第卅二條　貨物ヲ水運ニ委托シ回漕ノ途中初メテ陸運ニ移サントスル場合ニ於テハ其船主ハ荷主ニ代リ數條ノ手續ナナシ陸運ヲ委托スヘシ若シ其手續ヲ爲サヽルトキハ營業者ハ運送ヲ爲サヽルヘシ

第卅三條　回漕運賃ハ組合申合セ特別運送物ト通常運送物トヲ區別シ甲乙間ノ運賃ヲ船主ト約定シ豫シメ縣廳ヘ屆出ヘシ

但敍賞錢額ヲ變更爲シタルトキハ其都度屆出ヘシ

第四章　人馬繼立營業者ハ一驛貳ケ所以內ニ限ルヘシ尤組合廣濶ニシテ不便ナル

第卅四條　人馬繼立營業者ハ一驛貳ケ所以內ニ限ルヘシ尤組合廣濶ニシテ不便ナル

圖所ハ適宜出張所ヲ設置スヘシ但此場合ニ於テハ縣廳ノ裁可ヲ受クヘシ

第卅五條　遞傳貨物ハ各地ノ人馬繼立所ヲ通過スルヲ許サス但各地繼立所ノ承諾ヲ得ルカ別ニ組合規約アルモノ及ハ人馬繼立所出張所ハ此限ニアラス

遞傳貨物ノ內生魚獸肉並氷等ニ限リ各人馬繼立所及出張所トモ適宜通過スルヲ得

第卅六條　身元保證金額ハ營業ノ多少ニ依リ等差アルヘシト雖モ三拾圓ヨリ減スルコトヲ得ス

但其金額三分ノ二ハ地券又ハ公債證書ニ換フルコトヲ得

第卅七條　旅客又ハ遞送物ノ爲メ人馬車需用ノ際差支ナキ樣豫シメ人馬ヲ用意シ置クヘシ

第卅八條　急行繼立ヲ除クノ外申込ノ前後ニ從ヒ速ニ繼立ナサシ故ナク掩留スヘカラス

第卅九條　營業人ハ人馬繼立簿ヲ製シ置キ繼立ノ都度賃錢及ヒ人馬ノ數繼立驛名差立時間ヲ詳記シ置クヘシ

第四十條　各地繼立營業者ノ間ニ繼立帳ヲ製シ置キ貨物ノミ運送ノ委托ヲ受ケ繼立ツルトキハ個數及發着時刻稼業人ノ氏名ヲ詳記捺印シ互ニ受授スヘシ

第四十一條　貨物遞傳途中稼業人ノ過ヲヨリ紛失又ハ損傷等ヲ及ホスコトアルトキハ荷主ニ對シ該營業者ハ其責メニ任スヘシ

但該營業者ト稼業人等トノ處弁方ハ特ニ規約ヲ設ケ置クヘシ

第五章　旅人宿心得

第四十二條　旅人宿ヲ營業スルモノハ所管警察署又ハ分署ヘ届出許可ヲ受クヘシ

第四十三條　夜間ハ店前ニ燈ヲ點スヘシ

第四十四條　旅籠料其他組合規約中旅人ノ心得トナルヘキモノハ見易キ所ニ掲示スヘシ

第四十五條　旅人名簿ヲ製シ其屬籍身分氏名年齢職業到着地旅行ノ旨趣等ヲ記載スヘシ

第四十六條　旅客ヨリ案内状ヲ受取タルトキハ宿泊等ノ準備ヲ爲シテ其需メニ應スヘシ

第四十七條　客室及器具其他飲食物等清潔ニスヘシ

第四十八條　旅客ハ懇切ニ取扱單身ノ旅客ト雖モ差問ナク宿泊セシムヘシ

第四十九條　外國人投宿スルトキハ速カニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第五十條　旅客ノ滞在三日以上ニ渉ルトキハ其理由ヲ所管警察署分署又ハ巡査派出所ニ届出ヘシ

第五十一條　旅人宿ハ貸座敷ヲ兼業スルヲ許サス

第五十二條　旅客ノ依嘱タリトモ藝娼妓ヲ招聘スヘカラス

第五十三條　旅客ノ寄托ニヨリ危險物ヲ取扱フトキハ成ヘク別段ニ藏置スヘシ

第五十四條　宿引ヲ出シ旅客ヲ强誘スルヲ許サス

第五十五條　止宿人傳染病ニ罹リタルトキハ速ニ所管警察署又ハ衛生事務取扱所ヘ届出ヘシ

第五十六條　旅客ノ變死又ハ所持ノ金錢物品等紛失シタルトキハ速ニ所管警察署分署又ハ巡査派出所ヘ届出ヘシ

第五十七條　回漕船宿牛馬宿等ヲ營業スルモノ亦此規則ニ從フヘシ

第六章　陸運稼業人心得

第五十八條　陸運稼業人ハ人馬繼立營業者ノ外他ノ寄托ヲ受ケ荷物ヲ運搬スヘカラス

但各驛及人馬繼立所出張所ノ在地ノ外ハ此限ニアラスト雖モ人馬繼立所及出張所ヲ通過スルヲ許サス

第一節　馬車

第五十九條　馬車營業ヲ爲サントスルモノハ所管郡役所ヘ届出檢印ヲ受ケ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第六十條　馬車ハ構造及乘客ノ定員ハ左ノ諸項ニ從フモノトス

一　四輪ニシテ堅牢ナルモノ

二　車輪留ノ器具ヲ備ヒタルモノ

三　腰掛臺ノ巾壹尺以上ヲ以テ壹人ノ定度トス

四　馬一頭ニ付乘客六人ヲ定限トス

但十二歳未滿ノモノハ貳人ヲ以テ壹人ノ定度トス

五　乘客ノ手荷物ハ壹貫貳百目ヲ以テ定度トス

第六十一條　馬車ノ巖陋ナルト馬匹ノ羸弱ナルトハ營業ノ用ニ供スルヲ許サス

第六十二條　賃錢表ヲ乘客ノ見易スキ場所ニ釘付スヘシ

第六十三條　持主ノ住所氏名幷ニ乘客ノ定員ヲ詳記シ馬車ノ背面ニ釘付スヘシ

第六十四條　濫リニ馬車ヲ疾驅シ又ハ之ヲ幷ヘ牽キ其他夜中燈火ナクシテ馬車ヲ行ルヘカラズ

第六十五條　馬車ヲ疾行スルトキハ喇叭ヲ以テ合圖トナスヘシ

但街角橋梁ヲ通過スルトキハ徐行シテ掛聲ヲナスヘシ

第六十六條　電信郵便ノ遞送配達人等ニ行逢フトキハ右方ニ避クヘシ

軍隊ニ行逢フトキハ左方ニ避ケ通過スヘシト雖モ

第六十七條　往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ馬車ヲ駐止スヘカラス

第六十八條　狹隘ノ道路又ハ坂路ニ於テ車馬ニ行逢フトキハ適宜ニ路ヲ讓ルヘシ

第六十九條　他ノ馬車ヲ越ヘントスルトキハ必ス喇叭ヲ以テ合圖トナスヘシ

第七十條　傳染病瘋癲又ハ亂醉者ト認ムルトキハ乘車セシムヘカラス若シ乘客中傳染病ニ罹ル者アルトキハ速ニ所管警察署又ハ分署巡査派出所其他衛生事務取扱所ヘ屆出ヘシ

第七十一條　駁者ヲ稼業トスル者亦此規則ニ從フヘシ

第二節　人力車

第七十二條　第五十九條第六十六條ヨリ第六十八條ニ至ル人力車稼業人ニモ之ヲ適用スヘシ

第七十三條　壹人乘ノ車ニ貳人貳人乘ノ車ニ三人以上ヲ乘スルコトヲ許サス

但十貳歳未滿ノ者ハ第六十條第四項但書ニ依ルモノトス

第七十四條　賃錢表幷ニ持主ノ住所氏名ヲ記シ蹴込ノ正面ニ釘付スヘシ

第七十五條　旅客ノ承諾ナクシテ濫リニ車ヲ取替ヘカラス

第七十六條　壹人ニテ二輛以上ノ車ヲ挽クヘカラス

第七十七條　人力車ヲ所有シテ挽子ヲ使役スルモノ亦此規則ニ從フヘシ

第三節　荷馬車荷牛車

第七十八條　第五十九條第六十一條第六十四條第六十六條ヨリ第六十八條ニ至ル

荷牛馬車稼業人ニモ之ヲ適用スヘシ

第七十九條　馬車牛車ニハ持主ノ住所氏名ヲ見易スキ場所ニ釘付スヘシ

第八拾條　荷物ハ其荷主ノ承諾ヲ得スシテ自宅ニ留メ置ノヘカラス

第四節　馱馬　荷牛

第八拾一條　馱馬荷牛稼業人ハ驛傳取締所ヘ届出ヘシ

第八拾二條　第六拾四條第六拾六條ヨリ第六拾八條ニ至ル第八拾條ハ馱馬荷牛稼業人ニモ之ヲ適用スヘシ

第五節　荷車

第八拾三條　第五拾九條第六拾四條第六拾六條ヨリ第六拾八條ニ至ル第八拾條ハ荷車稼業人モ之レヲ適用スヘシ

第六節　人夫

第八拾四條　第八拾條第八拾一條ハ人夫稼業人ニモ之ヲ適用スヘシ

第八拾五條　荷物ハ荷主ノ承諾ヲ得スシテ荷替ヲナスヘカラス

第七節　渡船

第八拾六條　新タニ渡船場ヲ設ケントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

一　川名川幅（平水增減水ニ幷水源流末

二　對岸ノ地名

三　兩渡船ナリヤ片渡船ナリヤ

四　接續セル道路ノ名稱

五　船及舟夫ノ員數

六　壹ケ年賃錢受取高幷其割合方法

第八拾七條　賃額

第八拾八條　渡船場ニハ共同者ノ內ヨリ壹人又ハ貳人ヲ指定シ業務ヲ擔當セシムヘシ

第八拾八條　渡船場ニハ乘客ノ見易キ所ニ賃錢其他乘客ノ心得トナルヘキ條件ヲ記載セル木札ヲ掲ケヘシ

第八拾九條　渡舟ハ左ノ五項ニ限リ賃錢請求スルコトヲ得ス

一　軍隊ヲ伍ヲ組シ進行スルトキ

二　憲兵制服着用巡行ノ時

三　警部巡査制服着用特區內巡行ノ時

四　電信配達人（配達人タルヲ證スル服ヲ着シ記達スルモノ）配達ノ時

五　郵便脚夫郵便物遞送集配及飛信遞送ノ時

第九拾條　船体ノ堅牢ナラサルモノハ渡船ノ用ニ供スルヲ許サス

第九拾一條　渡船場ニ非ラサル場所ニ於テ行人ヲ渡スヘカラス

第九拾二條　賃錢受取所ハ乘客ノ便利ヲ計リ之レヲ設置スヘシ

第九拾三條　渡船場ハ乘客ノ出入ニ便利ナル構造ヲナスヘシ

第九拾四條　電信及郵便物ヲ配達遞送スルモノハ勿論其他ノモノト雖モ直ニ之ヲ渡スヘシ

第九拾五條　暴風雨出水等ノ節ハ渡船ノ通過ニ充モ注意スヘシ但出水八合ニ達スルトキ渡船スヘカラス

第九拾六條　渡船場ニ於テ船子ノミヲ稼業トスル者亦此規則ニ從フヘシ

第九拾七條　國道其他往來頻繁ナル沿道ノ渡船場ニ於テハ少ナクモ貳艘以上ノ渡船ヲ准備シ往來ニ差支勿ラシムヘシ

○驛傳取締人撰舉法

○茨城縣令甲第四拾五號（明治十九年十二月十六日）

驛傳營業取締人撰舉方法別冊ノ通相定ム

但本年甲第三號布達中本文ニ抵觸ノ廉ハ廢止ス

驛傳取締人撰舉法

第一條　驛傳取締所ニ驛傳取締人一名ヲ置ク

第二條　驛傳取締人ノ被撰人ハ年齡貳拾五年以上ノ男子ニシテ管內ニ本籍ヲ定メ驛傳交業務ニ通曉シ且資名望財產ヲ兼有セル者ニ限ルヘシ

第三條　驛傳取締人ヲ撰舉スルヲ得ヘキ者ハ組合驛傳營業人中年齡貳拾年以上ノ男子ニシテ管內ニ本籍ヲ定メ土地家屋ヲ所有シタル戶主ニ限ルヘシ

第四條　撰舉會ハ縣廳ノ達ニ依リ開會スルモノトス

第五條　撰舉會ヲ開カントスルトキハ其組合各町村戶長協議ノ上場所及會日ヲ定メ少クモ十日以前撰舉人ヘ通告スヘシ

第六條　開會當日ニハ取締所々在地ノ戶長會場ニ臨ミ事務ヲ管理スヘシ

第七條　撰舉人ハ取締人三名ヲ投票シテ會場ニ出スヘシ戶長ハ撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ撰舉人名簿ニ就キ投票ノ當否ヲ檢シ其多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人ト假定シ縣廳ノ撰狀ニ供スルモノトス

第八條　投票ハ自己及被撰人ノ住所氏名ヲ明記シ調印スルモノトス若シ投票セサル者又ハ該撰舉ニ付異議ヲ唱フルヲ得ス

第九條　區長ハ其當撰人ノ住所氏名年齡身分職業及票數ヲ記シ縣廳ヘ上申スヘシ

第十條　若シ當撰人ヲ不適當ト認ムルトキハ改撰セシメ又ハ縣廳ヨリ特命スルコアルヘシ

但任期中ト雖モ其職ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ亦同シ

第十一條　取締人ノ任期ハ三ケ年トス

但滿期再撰スルヲ得

○驛傳營業人諸願届書式

○甲第九號　（明治十九年一月廿九日）

本年甲第三號ヲ以驛傳取締規則及細則布達候ニ付各種營業人ヨリ差出スヘキ諸願届書式別紙之通相定ム
右布達候事

第十一　規則第拾六條ニ依リ届書式
何ノ驛傳組合規約御届

何縣何郡何々驛傳取締人

驛傳取締規則第拾六條ニ依リ組合營業人協議ノ上組合規約別紙之通取結候ニ付此段御届仕候也

右

何　ノ　誰　印

年　月　日

茨城縣令氏名殿

前書之通相違無之奥印仕候也

何縣何郡何町（村）戸長何　誰　印

第十二　（別紙ハ組合規約ヲ記載スヘシ）
規則第九條ニ依リ願書式
何町（村）戸長何　誰　印

陸運受負營業願

私義陸運受負業相營ミ申度御許可之上ハ都テ御規則ヲ遵守可仕ハ勿論身元保證トシテ（金何程）金何程ニ對スル公債證書（所有地何々）ヲ差出置キ可申候間御採可被成下度此段奉願候也

年　月　日

右

何縣何郡何町（村）何番地
寄留人（何郡何町村何番地寄留）
ナレハ（何郡何町村何番地寄留）
族籍
何　ノ　誰　印

何々驛傳取締人
何　ノ　誰　印

茨城縣令氏名殿

戸長奥印前同斷

人馬繼立營業願

右者願都テ陸運受負營業書式ニ倣フヘシ

（前兩條自宅ノ外ニテ營業スルトキハ（受負業繼立業）ノ下ヲニ（何町村）何番地何ノ誰宅ニ於テト（挿入スヘシ）

規則第拾七條ニ依リ届書式

貨物受授御届

何々驛傳組合
人馬繼立營業人
何ノ誰

私共驛傳取締規則第拾七條ニ依リ遞送ノ貨物ハ何等ノ場合ト雖モ受授スヘキ旨規約取結候ニ付双方連署ヲ以テ此段御届仕候也

右

何ノ誰印
何々驛傳取締人
何ノ誰印

茨城縣令氏名殿

戸長奥印前同斷

（四方ヘ繼立ノ營業所ハ四隣驛ノ營業人連署スヘシ）

細則第九條ニ依リ願書式

何々驛傳取締人御認可願

何々驛傳取締人
何ノ誰

驛傳取締細則第九條及第拾三條ニ依リ撰擧會開設候處左記ノ人名（正副）取締人ニ撰擧相成候ニ付御認可被成下度本人履歴書相添此段奉願候也

右

何ノ誰印

年　月　日

茨城縣令氏名殿

戸長奥印前同斷

何郡何町（村）何番地
族籍
何ノ誰
當何年何歳何ヶ月

（履歴書ハ別紙ニ認ムヘシ）

細則第八十六條ニ依リ願書式

渡船營業願

何縣何郡何町（村）何番地
寄留人（何郡何町村何番地寄留）
族籍　何　ノ　誰

（一村持又ハ共有ナラハ其惣代人弐名以上連署スヘシ）

私（共）義渡船業相營ミ申度御許可ノ上ハ都テ御規則ヲ遵守可仕候間御採可被成下度別紙取調書及地主承諾書ト共相添此段奉願候也

年　月　日

茨城縣令氏名殿
戸長與印前同斷
（別紙ハ細則八十六條ノ事項ヲ詳記スヘシ）

右　何　ノ　誰印

何々驛傳取締人　何　ノ　誰印

細則第四拾弐條ニ依リ願書式

旅人宿營業御届

何縣何郡何町（村）何番地
寄留人（何郡何町村何番地寄留）
族籍　何　ノ　誰

私義驛傳營業取締規則及細則ヲ遵守シ旅人宿營業致候ニ付御届仕候間御認可被成度候也

年　月　日

右　何　ノ　誰印

何々驛傳取締人　何　ノ　誰印

何々警察署（何々分署）長氏名殿
戸長與印前同斷
細則第五十九條ニ依リ届書式
馬車營業御届

何縣何郡何町（村）何番地

私義驛傳營業取締規則及細則ヲ遵守シ馬車營業仕候間郡役所ノ檢印ヲ受ケ此段御
屆仕候也

年　月　日

右

何々驛傳取締人　何ノ誰印

何々警察署（何々分署）長氏名殿

戶長奥印前同斷

（人力車荷馬車荷車營業屆書式ハ馬車營業屆書式ニ倣フヘシ）

○魚類繼立從來ノ慣習ニ據ル

○甲第五拾九號　（明治十年六月廿四日）

明治十九年（一月）甲第三號驛傳營業取締規則及細則布達致置候處當分ノ內魚類ニ限リ從來之慣行ニ據リ繼立スルコトヲ得

右布達候事

寄留人ナレハ（何郡何町村何番地寄留）

族籍　何ノ誰

○編者曰驛傳取締細則第廿九條中明治八年第百八十四號廻漕貨物取扱條例ハ船ノ部ニアリ

○第四款　渡津橋梁

○渡船場時ナラス渡ラント乞フ者急報及耕作船等ヲ以テ猥ニ渡船不相成

○第貳百四拾五號　（明治八年十月十日）

各區正副區戶長

諸川々渡船場ニ於テ時ナラス強テ渡ラント乞フモノ又ハ風体怪シキ者ヲ見認ル時ハ其所管警察出張所或ハ最寄在勤ノ邏卒ヘ急報スヘシ且耕作船及漁舟ヲ以テ渡船スルハ近鄉或ハ家人等不得止事故アルノ外猥リニ旅人ヲ渡船スルコト一切不相成候條渡船守舟子等ニ於テ注意候樣可相達事

但シ木文報告ニヨリ罪人ヲ捕得シタルトキハ相當ノ手當ヲ與フヘキコト

○渡船壹人タリトモ速ニ可爲渡且定賃錢ノ外請求不相成

○丙第四拾貳號　（明治十年八月二十九日）

正副區戶長

各渡船場之儀ハ至當ノ賃錢ヲ請取候儀ニ付壹人タリトモ速ニ可爲渡旨明治六年大藏省第七十五號達之趣相達置候處動モスレハ乘組人數待合ノ爲メ行旅ヲ妨ケ且ツ出水或ハ祭事等ニテ乘客混雜之際定賃ノ外多少請求候儀モ往々有之歟ニ相聞ヘ以ノ外ノ

事ニ候抑渡船賃之儀ハ該地往來人員ノ多寡及ヒ流水干滿等平均ノ取調ヲ以賃額改定致シ度候事ニ付心得違之者無之樣區内渡船之者ヘ無遺漏懇諭可致此旨更ニ相達候事

○渡船乘組人員待合セ及出水等ノ際增賃錢請求無之樣懇諭可致

○丙第拾號（明治十五年一月二十一日）

戶長

各渡船場舟夫共心得方之義ニ付テハ明治八年丙第四拾貳號ヲ以テ相達候趣モ有之候處近來兎角怠慢ニ流レ乘組人員待合セノ爲メ行旅ヲ留置或ハ出水等ノ際定賃ノ外多少增錢請求候義モ有之哉ニ相聞自然刑法第四百貳拾八條第貳項ノ明文ニ觸レ候樣ニ至リテハ不都合ニ候條右達ノ旨趣ヲ遵守心得違之者無之樣聯合村内舟子共ヘ尙無遺漏懇諭可致此旨相達候事

○渡船速ニ可越立

○丙第貳拾三號（明治十六年十二月二十一日）

戶長

川々渡船之儀ハ至當之賃錢ヲ請取候義ニ付讐壹人タリトモ速ニ可越立旨去ル六年大藏省第七拾五號達之趣迫々相達置候處今以多人數ニ及候迄行旅ヲ留置候弊習洗除セサル哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候就中郵便遞送脚夫ノ如キハ自然接續線路發着之時期ヲ失シ不容易衆庶ノ不便ヲ來シ不都合ノ事ニ候條自今必ス右等心得違無之樣渡守及艀子共ヘ乾度諭達スヘシ此旨相達候事

（編者曰渡船場ノ事項ハ驛傳取締細則中ニアリ參看スヘシ）

○私費架設ノ橋梁渡津軍隊行進ノ節賃錢請求不相成

○丙第拾五號（明治十三年四月二十二日）

戶長役場

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊々伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條其旨兼テ許可有之架橋渡船願人共ヘ無漏可爾示此旨相達候事

○橋梁渡津等郵便脚夫鑑札所持ノ節賃錢請求不相成

○丙第六拾號（明治十六年七月十四日）

戶長

人民私費ヲ以架設之橋梁渡津及ヒ私費開鑿之道路等郵便脚夫之飛信遞送幷ニ郵便物集配（特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ達配スルトキ）ノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月本縣丙第貳拾三號ヲ以相達當候處自今左之如キ鑑札所持ノモノハ成服着否ニ拘ハラス賃錢請求不相成候條此旨兎許人等ヘ無洩可相達此旨相達候事

木製

第　號
何　國
何地郵便咖夫
何ノ誰

貳寸五分

○私費開設ノ橋梁渡津等電信配達人賃錢請求不相成

○丙第八拾號　（明治十六年九月十五日）

人民私費ヲ以開設ノ橋梁渡津及ヒ道路等電信配達人（特ニ配達人ダルヲ證スル服ヲ着シ配達スルトキ）ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條其旨免許人共ヘ無洩可相達此旨相達候事

○第五款　燈臺等標

戶　長

明治十六年　何國何地郵便局
　月　日

此印ハ曾テ驛遞局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

○燈標建築被差許
○太政官第三百拾貳號公布　（明治五年十月二十日）　府　縣
御國內海岸燈臺建築ノ儀ハ辛未五月中被仰出ノ旨モ有之候處向後內外船舶ノ航路幷ニ開港場ノ標的ヲ除クノ外各地港內其地一隅便利ノ爲メ燈標ヲ設置致シ候儀ハ其地方ニ於テ公私ノ差別ナク便宜次第建築被差許候條願出候向ハ實地ノ模樣詳細取調繪圖相添工部省ヘ可申出候尤燈標ノ形質點燈ノ方法ハ御國內齊一ノ規則ヲ以テ施行致シ候筈ニ付總テ同省ノ指圖ヲ受可取計事
但私費ヲ以テ建築ノ向ハ追テ稅則一定ノ上年々其場所相當ノ稅金取立可被下渡候事

○燈標私設禁止

○第拾壹號布達　（明治十八年六月五日）

明治五年十月第三百拾貳號布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁止ス
但既設燈標ニシテ從前船舶ヨリ其費用ヲ徵セサル者ハ來ル明治二十五年ヲ限リ廢止其費用徵收願濟年限ナキ者ハ此際相當ノ期限ヲ定メ更ニ工部省ヘ願出ヘシ
右布達候事

○私設燈費海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ツルヲ得ス

○遞信省令第十八號　（明治十九年六月二十九日）

私設燈臺ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ツルヲ得ス

○燈臺浮標設置届書

○丙第百九號　（明治十六年十一月二十八日）

郡役所
戸長役場

御國内海岸燈臺私築ノ儀ハ明治五年十月第三百拾貳號公布ノ趣ニ依リ出願許可ノ上施行可致筈ノ處間々無其儀私築候向モ有之哉ノ趣甚タ不都合ノ次第ニ候元來燈標ノ儀ハ往來ノ航海船舶ノ針路ヲ示シ便益ヲ與フル爲ニ候處其設立ノ位置等一般ニ承知不致且海圖上ヘモ掲載無之トキハ却テ航海者ニ危害ヲ與フル基ト相成實ニ不容易儀ニ候條以來厚ク注意可致就テハ今後燈臺幷ニ浮標礁等私設ノ儀願出候節ハ別紙ノ廉々詳細取調可差出尤モ在來ノ分ト雖モ右同樣取調至急可届出此旨更ニ相達候事

（別紙）

燈臺（浮標）（礁標）設置調書（在來ノ分ナレバ）

（御届書）

設置ノ地名及國郡字
凡緯度
凡經度
燈臺形質
燈明光色
光達區界
凡光達距離但海里
器械種類
臺礎上燈火ノ高サ
水面上燈火ノ高サ
點燈ノ時期
課稅額

何浮標
位置
浮標形質
大抵潮ノ深サ
課稅額

何礁標
位置
礁標ノ形質
大抵潮礁ノ高サ

課稅額

右燈臺(浮標)(礁標)今般新設仕候ニ付御許可相成度此段奉願上候也(在來ノ分ヲ改レハ)何年何月何日ヨリ點火設置仕候ニ付此段御届申上候也

縣町(村)番地
士族(平民)
何
某

年　月　日

長官　宛

○第十八章　船舶

○船稅規則

○第十三號　輸廓付（明治十六年四月十七日）

船稅規則別冊之通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

各奉勅旨布告候事

船稅規則

第一章　總則

第一條　凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條　船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願ヒ出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條　新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管內ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該繫場ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ヘ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條　船體ヲ變更シ積量若シハ間數ニ增減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條　船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條　船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸漑船　百噸ニ付　壹年金拾五圓

同風帆船　同　同　金拾圓

日本形船積石五拾石以上　百石ニ付同金貳圓

同　積石五拾石未滿（自舳梁至艫梁二間迄ハ壹年金三拾錢）

艀漁船小廻船積石ニ拘ラス（自舳梁至艫梁三間迄ハ壹年金五拾錢）

但シ三間以上壹間ヲ加フル每ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船　長自舳梁至艫梁三間迄ハ壹年金五拾錢

但シ三間以上壹間ヲ加フル每ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條　本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若シクハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但シ日本形積石五拾石未滿ノ船並ニ鮮漁船小廻シ船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條　解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條　鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ヒハ改名代替リノ時或ヒハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願ヒ出テ鑑札ノ再渡シ若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條　左ニ揭クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届ケ出テ免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田耕作ニ用フル船

水兵ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡シ場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揭ケ置ク傳馬船「ハツテーラ」船ノ類

第二章　納稅

第十一條　稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ニ付徵收スル者

トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條　新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條　船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ增減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條　他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條　本籍管內ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條　假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫シメ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章　罰則

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條　免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及ヒ第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處

ス

第二十一條　此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○船稅徵收方法

○大藏省第三十八號達　（明治十七年六月）

府縣

本年四月第十號布告ヲ以テ船舶積量測度規則制定相成候ニ付テハ明治四年十二月當省達船舶噸數改方法則及ヒ石數改方法則右施行ノ日ヨリ廢止候條船稅徵收ノ噸數及ヒ積石數定方左ノ通相心得ヘシ

西洋形船舶ハ船免狀ノ登簿噸數ニ照シ船鑑札面ヲ改正シ其噸數ニ據リ徵收スヘシ

船免狀ヲ下附セサル西洋形船舶及ヒ日本形積石數五十石已上ノ船舶ハ測度更正濟ノ時ヨリ船鑑札面ヲ改正シ其登簿噸數及ヒ積石數ニ據リ徵收スヘシ

前二項ニ由リ在來徵稅ノ噸數及ヒ積石數ニ增減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ

右相達候事

○船稅取扱心得書

○大藏省第三十六號達　（明治十六年六月）

府縣

本年（四月）第十三號ヲ以テ船稅規則制定布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定ム

但明治四年十二月二十六日達噸石數改方法則ノ外船稅規則ニ關スル從前ノ達ハ廢止ス

右相達候事

船稅取扱心得書

第一條　西洋形（蒸滊風帆）船並ニ日本形積石五十石以上ノ船鑑札ハ第壹號雛形ノ通日本形積石五十石未滿ノ船並ニ艀漁小廻船遊船ノ鑑札ハ第貳號雛形ノ通府縣ニ於テ調製下付スヘシ

但假鑑札ハ雛形鑑札ノ上假ノ字ヲ記入スヘシ

第二條　噸數ハ壹噸積石數ハ壹石間數ハ壹間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ

第三條　規則第七條但書鑑札釘付ノ箇所及ヒ同第十條免稅印烙記ノ箇所ハ該船舶ノ艫外部後面ニ之ヲ爲スヘシ

但烙印ハ從前雛形ノ如ク府縣廳ニ於テ調製スヘシ

十七年三月同省第二十號達訂正ノ面

十七年三月同廿日省第號訂正ノ面

第四條　規則第三條ニ據リ檢査ヲ爲シ假鑑札ヲ付與シタルトキハ其旨定繫場所在ノ管廳ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル管廳ハ直ヤニ其地ノ船籍ニ編入シテ該期ノ稅金ヲ收入シ還テ本鑑札引換相渡シタル上最前通知ノ管廳ニ報道スヘシ

第五條　船舶賣買讓與其他ニテ定繫場ヲ變換シ其新舊定繫場中乙管廳ニ交涉スルトキ乙管廳ニ於テ其地ノ船籍ニ編入鑑札引換相渡シタル上ハ直ニ甲管廳ニ報道スヘシ

第六條　前二條ノ手續ニ依リ鑑札引換ノ節ハ更ニ該船ノ檢査ヲ要セス舊鑑札若クハ假鑑札ニ記載ノ噸石數又ハ間數等ニ據ルヘシ

但其返納セシ舊鑑札假鑑札ハ不取締無之樣消却シ最初下附シタル管廳ヘ返戻スヘシ

第七條　船舶ノ內其船体ノ擧造若クハ網具ノ裝備等西洋形ニ摸擬セシモノハ總テ西洋形船ニ準シテ課稅スヘシ

第八條　西洋形（蒸汽風帆）船ハ港灣湖川等ヲ運用スル小船ト雖モ總テ其噸數ニ依リ鮮漁船小廻船ハ積石數五十石以上ト雖モ總テ其間數ニ依リ課稅スルモノトス

第九條　港灣其他ノ海岸又ハ湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク船舶ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十條　船稅表及ヒ免稅船員數表ハ第三號第四號雛形ニ倣ヒ每半年分ツヽ調製翌期一（七）月三十一日限リ該地差立租稅局ヘ送付スヘシ　（已下雛形略ス）

○日本形五百石以上船舶製造禁止

○第十六號布告　（明治十八年七月四日）

日本形五百石已上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

右奉　勅旨布告候事

○船舶積量測度規則

○第給號　輪廓付　（明治十七年四月二十四日）

船舶積量測度規則別紙ノ通制定ス明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉　勅旨布告候事

船舶積量測度規則

第一條　凡ソ船舶（海軍艦船ヲ除ク）ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スルモノトス

第二條　船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

第三條　西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ壹噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ壹石トス

第四條　西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量廻甲板トシ二層ノ者ハ其

上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條　西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條　汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條　乘組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條　機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車機船機關室ノ噸數該船總數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ二十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條　日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條　船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○船舶積量測度方法　輪廓付　（明治十七年四月二十四日）

今般第拾號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム

右布達候事

船舶積量測度方法

第一條　西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　量噸甲板上ニテ船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢（船梁ノ弧形チナス高）ノ二分ノ一ヲ船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シテ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ

第一級　量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個

第二級　同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個
第三級　同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個
第四級　同百八十尺以上三百二十五尺迄ノ船ハ十個
第五級　同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ正面ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板下ノ深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各深ヲ等分スヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ艙内ノ幅ヲ測定スヘシ

各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅（上下兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ其得數ヲ各分長點ニ於ケル横截面積トス

各分長點ノ横截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積（船首船尾ノ兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積（若シアレハ）ヲ加ヘ之ヲ量噸甲板下ノ噸數トス

第二項　最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其

高ノ中央ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項　甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ平均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅（船首船尾ノ兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ幅（若シアレハ）ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條　機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數トス

第二項　機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項　暗車滊船ニ於テハ舳室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニ

テ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條　甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　船首上端ノ內側ヨリ船尾上端ニ揭クル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項　船舷上端ノ境線ヲ超エ船室ノ設アルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條　日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ內側ヨリ內側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項　船首室ノ境界ヨリ船尾ノ內側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

第五條　日本形ニテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ル

ヘシ

船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル船底ノ長ヲ側リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石トス

○公稱馬力算定法

○農商務省第十三號（明治十七年五月二十二日）　府　縣

瀛船公稱馬力算定方法左之通相定候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一　冷瀛器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ瀛筒吸鍔ノ經ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數拾箇ニテ除シタルモノ

但瀛筒二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一箇毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第二　冷汽器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ瀛筒吸鍔ノ經ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ二拾個ニテ除シタルモノ

但瀛筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第三　冷氣器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筒吸鍔ヲ莢ヲ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但瀛筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第四　冷氣器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀛筒吸鍔ノ經ヲ莢寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但瀛筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

○西洋形船舶檢査規則

第三十號布告　（明治十七年十二月）

西洋形堪船檢査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

右本　勅旨布告候事

西洋形船舶檢査規則

第一條　西洋形船舶（海軍艦船ヲ除ク）ハ此規則ニ遵ヒ檢査ヲ受ケヘシ

但登簿船免狀ヲ受有スル西洋風帆船ハ此限ニニアラス

第二條　船舶檢査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條　檢査所ヲ設ケサル開港場ニ於テ船舶ノ檢査ヲ請ント欲スル者ハ最寄檢査所ニ願出ヘシ

第四條　檢査所ヲ設ケサル地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條　登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル漁船ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條　檢査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス

但第五條ノ汽船ニ係ル檢査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條　檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル檢査證書ヲ交付ス

但地方廳ノ檢査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一　番號

一　船名

一　船主氏名

一　定繫場名

一　登簿噸數

一　端艇其他必要ノ所屬品

一　航行シ得ヘキ場所ノ定限

一　證書有効期限

汽船ニハ左ノ諸項ヲ加フ

一　公稱馬力

一　汽機ノ種類

一　汽罐ノ種類

一　最大汽壓

一　旅客定員

第八條　檢查官吏ニ於テ船舶ヲ檢查シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條　檢查證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六ケ月十二ケ月ニ區別ス

第十條　檢查證書ハ船內最モ見易キ場所ヘ揭ケ置クヘシ

第十一條　檢查證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ス

第十二條　船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ屆出ヘシ

第十三條　船體若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ檢查ヲ受クヘシ

第十四條　船舶航行ノ用ヲ爲サヽルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直

ニ檢查證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條　檢查證書ノ有効期限內ト雖モ檢查官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條　船舶ノ檢查ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ檢查證書ヲ使用シ又ハ檢查證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ檢查官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタルモノハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　檢查證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　檢查官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條　第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　檢查細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○西洋形船舶檢查方

○遞信省令第壹號　（明治十九年三月九日）

明治十七年(十二月)第三拾號布告西洋形船舶檢查規則第五條ニ揭ク汽船ニシテ官有ニ屬スルモノハ其所屬官廳ニ於テ檢查シ其商業上ニ使用スルモノニ限リ當省ニ於テ檢查ス

○西洋形船舶檢查細則

○遞信省令第四號　(明治十九年四月八日)

西洋形船舶檢查細則左ノ通之ヲ定ム

西洋形船舶檢查細則

第一條　西洋形船舶檢查規則ニ依リ檢查ヲ受クヘキ船舶ハ此細則ニ據ルヘシ

第二條　檢查規則第三條及第五條ニ揭ク船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直ニ司檢所(不登簿船ハ其地方廳)ニ差出シ檢查ヲ受クヘシ

第三條　檢查規則第四條ニ揭ク船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ其船籍地方廳ヲ經テ遞信省ニ差出シ檢查官吏ノ派出ヲ俟テ便宜其檢查ヲ受クヘシ

第四條　檢查ヲ受ケ檢查證書ヲ受領セサル以前ニ於テ本船ヲ運航セントスルトキハ其船主若クハ船長ヨリ檢查官吏ニ請フテ第二號書式ノ假證書ヲ受クルコトヲ得但假證書ノ効用ハ二箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限內本證書ト交換スヘシ

第五條　遞信省若クハ地方廳ハ第三號書式ノ檢查證書ヲ作リ登簿船ハ司檢所ヲ經由シ不登簿船ハ便宜之ヲ船主若クハ船長ニ下渡スヘシ但檢查規則第四條ニ揭クル船舶ニハ其地方廳ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ

第六條　檢查規則第七條ニ揭クル航路ノ定限ハ左ノ四項ニ區分ス

第一　外國航船　內外國諸港ニ航通スル者

第二　內國航船　內國諸港ニ航通スル者

但朝鮮國南界ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル沿岸及ヒ薩哦噠諸港ニ航スルモノモ包含ス

第三　近海航船　內國沿岸ノ近港及ヒ內地ト離嶋ノ間ヲ航通ス特ニ其航路ヲ定限シタル者

第四　平水航船　湖川及ヒ靜穩ノ海上ヲ限リ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタル者

第七條　左之場合ニ限リ航路定限外ヲ航行スルモ妨ケサシ

第一　航路定限外之地ニ於テ製造若クハ購求シタル船舶檢查ヲ經タルト否トヲ問ハス其航路定限內之地或ハ最寄司檢所其他檢查ヲ受クヘキ場所迄航行スル者

第二　航路定限內ニ檢查ヲ受クヘキ一定之場所ナキカ爲メ特ニ最寄司檢所其他檢查ヲ受クヘキ場所迄航行スル者

第三　航路定限内ニ於テ船體若クハ汽機汽鑵其他要部ヲ修繕スヘキ場所ナク爲メニ最寄工場所在地迄航行スル者

第八條　船内旅客之定員ハ寢床之數ヲ以テ定ム尤モ雜居室之定員ハ左項ニ據ルヘシ但多數之兵卒若クハ移住民ハ夫等ヲ搭載シ航通スルモノ及ヒ河川渡舟ノ如キハ旅客定員ノ限ニアラス

第一　外國航船ハ一坪（六尺四方）下等二人但内國ヲ限リ航通スルモノハ内國航船之旅客定員ニ據ルヲ得

第二　内國航船ハ一坪（四尺四方）上等二人中等三人下等四人

第三　近海航船及ヒ平水航船ハ一坪（六尺四方）上等四人中等五人下等六人但航通ノ途次他ニ寄港スルト否トヲ問ハス六時間以内ニ仕向港（最終ノ地）ニ到達ヲ得ヘキ者ハ定員ノ外一坪（六尺四方）ニ付上中等ハ一人下等ハ二人マテヲ增加スルヲ得

第四　湖川ヲ限リ航通スル船舶ノ下等旅客ハ場合ニヨリ一坪（六尺四方）十人迄ニ增加スルヲ得

第九條　登簿噸數五百噸以上ノ船舶ニシテ船體汽機ノ外國航通ニ堪ヘサルモノヲ除クノ外ハ其外國ニ航スルト否トヲ問ハス都テ外國航船トシテ檢査ヲ受クヘシ

第十條　登簿免狀ヲ受有スル船舶ハ臨時檢査ヲ除クノ外前回檢査ヲ受ケタル司檢

查所（檢査規則第四條ニ揭クル船舶ハ其地方廳）ヘ次回ノ檢査ヲ願出ヘシ但其航路ヲ變スル等ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十一條　檢査規則第十三條ニ揭クル船舶ハ最寄司檢所（不登簿船ハ其地方廳）ニ願出テ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　船主ノ都合ニ依リ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルトキハ其旨ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（檢査規則第四條ニ揭クル船舶ハ管船局又不登簿船ハ其地方廳）ニ届出ヘシ

第十三條　檢査執行ノ際船免狀及ヒ乘組員技術免狀ヲ合セテ檢査官吏ノ檢閱ニ供スヘシ

第十四條　定時臨時ニ拘ハラス修繕等ノ爲メ運航ヲ差止メタルトキハ檢査官吏ニ於テ本船現有ノ檢査證書ヲ引上置クヘシ

第十五條　檢査規則第十一條第十二條第十四條ノ場合ニ於テハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（不登簿船及檢査規則第四條ニ揭クル船舶ハ其地方廳）ニ差出スヘシ

第十六條　船舶檢査ノ方法及ヒ細目ハ管船局發行ノ檢査手續書ニ據ルヘシ

第一號書式

汽（帆）船何丸第何回御檢査願

一　本船々主若ハ會社名其所在地
一　總噸數及登簿噸數
一　定繫場
一　本船製造年月及ヒ場所
一　船體材料
一　綱具ノ裝備
一　公稱馬力
一　推進器ノ種類
一　船路定限
一　前期檢查ノ場所（第二回ノ願書ニハ之ヲ除ク）
一　前期檢查證書有効期限（前ニ同シ）
一　前回本船入渠檢查年月日
一　前回汽鑵水壓試驗年月日

右ノ汽（帆）船（當時何地ニ定泊若クハ入渠中ニ付御檢査被成下度）ニ何地ヨリ何地ノ間ヲ航通司檢查所々在地ニ回航不仕候ニ付何地ニ於テ御檢查奉願度候間其旨遞信省（御上申被下度此段奉願候也

船主若クハ總長

船舶檢查假證書

明治　年　月　日

司檢所（地方廳）ニ於テ

第二號書式

船名	船主氏名	航路定限	端艇其他ノ屬具	汽機種類	汽鑵種類

檢查地名	登簿噸數	定繫場	旅客定員 上等	旅客定員 中等	旅客定員 下等	公稱馬力	最大壓汽

何某所現住

船舶檢査

第二號書式ノ

番號	船名	證書有効期限	航路定限	艦艇其他ノ區別

檢査地名	登簿噸數	定繫場	船主氏名	旅客定員 上等	旅客定員 中等	旅客定員 下等

右ノ船舶檢査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以テ此檢査假證書ヲ附與スル者也

但シ此假證書ハ明治　年　月　日ヲ限リ無効シルヘシ

明治　年　月　日

官　姓　名　印

（貳名以上ノ檢査ニ係ルトキハ連署スル者トス）

證書

種類	汽鑵	機關

最大馬力	公稱馬力

右ノ船舶檢査ノ上本書期限中記載之航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船舶檢査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スル者也

明治　年　月　日

遞信省

地方廳　名印

○外國船乘込規則

○太政官第三拾號　輪廓付　（明治十年二月十八日）

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締之タメ左之通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條　外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地方廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條　乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條　乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第四條　乘船證書ハ毎人親ヲ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條　乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸（例ヘハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港ニ御碇シタル時用便之タメ暫時上陸スル之類）スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書之檢閲ヲ受クヘシ

第六條　乘船證書ハ一度之出船ニ用フル者トス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他之船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海之便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地方廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條　乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸之節速式ニ照シテ處分スヘシ

第八條　開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ屬書ヲ差出ス者アルトキハ第一條第四條之手續ニ相違ナキヤヲ檢閲シ別紙雛形之證書ヲ直ニ本人ニ相渡手數料ヲ領收スヘシ

第九條　右地方廳ハ乘テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ內國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ルヘシ手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ速式ニ照シテ處分スヘシ

第十條　警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

證書雛形（料紙西ノ內紙八ッ切）

表面

割印

右何國何號船ニ乘込何港ニ到ルヲ認了ス

年　月　日　廳　名　印

何府（縣）何大小區何町（村）住（寄留）
何府（縣）華（士）族（平民）
姓　名　年　齡

裏面

一此證書ヲ授與スルカタメ規則ノ通手數料ヲ領收セリ

一此證書ハ何港到着ノ節其地臨檢警察官吏ヘ返付スヘシ

○航海公證規則

○第八十八號　（明治七年八月二十七日）

航海公證規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

航海公證規則

第一條　航海公證ハ日本國所轄船ノ外國地方或ハ大洋ニ於テ日本船タルヲ證セシメ並ニ保護ヲ得セシムルモノナリ

第二條　外國ヘ航セント欲スル日本國船ハ（日本形西洋形トモ）船主又ハ船長最寄ノ開港場管廳ヘ船籍證書ヲ添ヘ出願シ公證ヲ受クヘシ

第三條　各開港場管廳或ハ外國在留日本公使又ハ領事ハ凡ソ見積リ壹箇年分或ハ半箇年分公證ヲ外務省ヨリ受取置キ外國ヘ航セント欲スル船主又ハ船長ヨリ公證願出ル時ハ船籍證書ヲ目的トシ之ヲ渡スヘシ

但船籍證書ハ閱覽ノ上本人ヘ差戻スヘシ

第四條　船長若シ事故アリテ公證ヲ逸失スルコトアラハ內國ハ再ヒ開港場管廳ヘ、外國ハ其國或ハ最寄ノ國ニ在留スル日本公使又ハ領事ヘ再ヒ第二條ニ照準シ出願シ之ヲ受クヘシ

但公使領事在留ナキ國ハ此限ニアラス

第五條　各開港場管廳或ハ外國在留日本公使又ハ領事ニ船長ヨリ公證逸失ノ次第ヲ陳告シテ更ニ公證受ケ度旨願出ル時ハ第二條ニ照準シ之ヲ渡スヘシ

第六條　公證ヲ受クル者ハ其手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條　船長ハ各開港場管廳或ハ外國在留ノ日本公使又ハ領事ヨリ受ケタル公證ヲ其歸着スル所ノ開港場管廳ヘ三十日內ニ返納スヘシ

第八條　各開港場管廳ハ船長ヨリ返納スル公證ヲ毎年十二月外務省ヘ納ムヘシ

第九條　各開港場管廳ハ若シ船長第七條ノ手續ヲ怠ル時ハ罰金トシテ金三圓取立ヘシ

第十條　各開港場管廳ハ若シ公證ヲ願受ケス海外ヘ航セシ者アラハ罰金トシテ金拾圓取立ヘシ

第十一條　各開港場管廳及外國在留日本公使又ハ領事ハ毎年十二月右手數料罰金トモ外務省ヘ納ムヘシ

但外務省ヨリ罰金ハ司法省手數料ハ大藏省ヘ送致スヘシ

○船燈監查手續概目

○農商務省第拾壹號　（明治十八年四月四日）

警視廳沿海府縣並滋賀縣（沖繩縣ヲ除ク）

船燈監查手續概目左ノ通相定候條右ニ照準可取扱此旨相達候事

船　監查手續概目

第一　船燈ヲ監査スルハ其所轄ノ廳府縣ニ於テ監査員ヲ派出シ製造所販賣所及ヒ
繫泊ノ船舶ニ就キ施行スルモノトス
但シ西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及ヒ甲板ナキ漁舟小艇等ハ此
限ニアラス
第二　製造所販賣所ハ船燈製造及販賣規則第十條ニ遵ヒ精細ニ監査シタル上合格
ノ燈器ニハ其廳名アル檢印（檣燈ハ側面舷燈ハ前面）ヲ刻シ不合格ノモノハ製造
方法ニ照シテ改造セシムヘシ
第三　船燈ハ府縣廳ノ檢印ナキモノ及ヒ免許販賣所外ニ於テ販賣スルヲ許サス
第四　繫泊ノ船舶ハ其船籍ノ自他ニ係ラス定時（毎年二回四月十月）又ハ臨時監査
ヲナシ別紙甲號書式ニ據リ監査證書ヲ附與スヘシ但不合格ノ舷燈隔板及ヒ碇泊
燈ヲ所持シ若クハ之カ裝置ヲ誤ルモノアレハ懲篤ニ危害ノ在ル所ヲ指示シ速カ
ニ改良セシム可シ
第五　無檢印ノ舷燈（舶來品ヲ除キ）ヲ所持スル者其購入ノ年月此監査手續施行以
後ニ係ルトキハ之ヲ販賣セシ者ノ住所氏名ヲ取糺シ其地方廳ニ通報スヘシ
第六　監査ノ際船長又ハ海員中重立タル者ニ就テ海上衝突豫防規則中必要ト認ム
ル條件ヲ尋問シ若シ之ニ通曉セサル者アルトキハ懇ロニ說明スヘキモノトス
第七　監査證書ハ第一回ヨリ第五回目監査ヲ了ル迄ハ各地方ヲ通シ該證書欄内ニ

其都度加書押捺シ參照ノ便ニ供スヘシ
第八　毎回監査ヲ了リタル上ハ別紙乙丙號書式ノ監査表ヲ製シ一箇年兩度（六月
十二月）ニ取纏メ農商務省ヘ報告スルモノトス
第九　製造人販賣人ノ住所氏名ハ各府縣相互ニ通報スルモノトス
但人員增減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ
第十　船燈ニ關シ犯則ノ所分ニ係ルモノアルトキハ其事項ヲ詳細農商務省ヘ届出
ツヘシ
第十一　右各項ニ基キ尙ホ地方ノ便宜ニ依リ細目ヲ設クルハ妨ケナシト雖トモ此
場合ニ於テハ更ニ農商務省ヘ届出ルモノトス
（別紙船燈監査證及監査報告書式ハ畧ス）

○船燈信號器製造販賣規則
（明治十九年七月二十三日）

○遞信省令第十九號　（明治十九年七月二十三日）
船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ム
但明治十四年（八月）農商務省甲第四號布達ハ廢止ス
船燈信號器製造販賣規則
第一條　船燈（檣燈、舷燈）發火信號器（星火ヲ發スル摺彈或ハ火筒信號炮管、跳彈）
ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ受

クヘシ

第二條　發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共拾箇以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試驗ヲ受クヘシ但試驗入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム

第三條　遞信省ハ船燈、發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條　免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條　免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

第六條　船燈、發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條　免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條　船燈、發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ增減スルヲ得ヘシ

第九條　遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條　不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條　不合格ノ船燈發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○海上衝突豫防規則

（明治十二年十月）

第一條　此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用ユルトキハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條　各船日沒ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條　蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

甲　前檣又ハ其前面ニ於テ船体上二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一箇ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ルトキハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ

此ノ燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵燈ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ

テ之ヲ左右舷外へ十方位ッヽ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ニ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里ニテ算ス以下之ニ倣フ)ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

乙　右舷ニ綠燈ヲ揭クヘシ

此ノ燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鍼盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

丙　左舷ニ紅燈ヲ揭クヘシ

此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鍼盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且ツ晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

丁　右綠紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ一二尺出テタル屏風樣ノ隔板ヲ其燈火ノ內側ニ當テヽ裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル樣ニナスヘシ

第四條　蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テヽ縱ニ連揭シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ

此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ揭クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ揭クヘシ

第五條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ揭クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連揭スヘシ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ黑球若クハ黑色形象三個ヲ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑二尺ノ黑球三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ揭クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連揭シ其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央ヲ白色トナシ其紅燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑二尺ヨリ少カラサル形象三個ヲ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連揭シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個ハ白色縱菱形ヲ用フヘシ

本條ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ揭クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ揭クヘシ

本條ノ燈火及形象ヲ揭クル船ハ運用自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルヲ標スルモノト他船ニ於テ必得ヘシ但危難ニ罹リ救助ヲ要スル船ハ第二十七

條ノ難船信號ヲ用フル者ト心得ヘシ

第六條　帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルヽトノ差別ナク白燈ヲ除ク外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條　小形船ニ於テ天氣ノ模樣ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キトキハ綠燈ヲ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ樣甲板上ニ用意シ置キ他航ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ樣各舷ニ標スヘシ

但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘサル樣注意スヘシ紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル樣注意スヘシ此綠紅燈ノ置違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且成規ノ隔板ヲ之ニ備ヘ置クヘシ

第八條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船體上ヨリ貳丈ヲ超ヘサル所ニ白燈壹個ヲ掲クヘシ

此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ充明ノ光ヲ發シ少クモ周回壹里ノ距離ヨリ見ユル樣ニ爲スヘシ

第九條　水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用ユル燈火ヲ掲ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈壹箇ヲ掲ケ且十五分時ニ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光壹箇又ハ數箇ヲ發スヘシ水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同樣ノ燈火ヲ掲クヘシ

第十條　甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用ユル舷燈ヲ掲クヘシ

ソルコト及ハス然レトモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠壹箇ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ

但シ此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル樣注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルトキハ亮明ナル白燈壹箇ヲ標スヘシ且シ便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發シ又晝夜ニ拘ハラス霧中號角ヲ用フルモ苦シカラス

第十一條　他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條　蒸瀘船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且ツ輔其他ノ機械ヲ以テ發聲スヘキ霧中號角或ハ霧中信號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ帆前船ハ同樣ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但シ此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ

（甲）蒸汽船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發ス

ヘシ

(乙)帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開キレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙)帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非レハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ號鍾ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條　帆前船ト蒸溜船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條　弐艘ノ帆前船互ニ近寄リテ衝突ノ懼アルトキハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク航路ヲ避クヘシ

(甲)一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙)左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊)船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條　二艘ノ蒸氣船正シク眞向又ハ殆ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ懼アルトキハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他路ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正ク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢フテ衝突ノ懼アルニ限リ應用スヘシ

各共鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ハ我船ノ檣ト地船ノ檣ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈ヲ他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈ヲ他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船前面ニ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ニ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ應用スヘカラス

第十六條　二艘ノ蒸汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アルトキハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條　帆前船ト蒸溜船ト互ニ近寄リ衝突ノ懼アルトキハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　總テ蒸汽船他船ニ近寄リ衝突ノ懼アルトキハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條　蒸汽船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ルトキハ左ノ濃霧信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發　我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發　我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發　我船一杯之速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否トハ隨意タルヘシ但シ此信號ヲ用ヒタルトキ之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號還リニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條　帆前船蒸汽船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスルトキハ以上ノ規則ニ拘ハラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　總テ蒸汽船險隘ノ水路ヲ航通スルニ當リ無難ニ通行シ得ルトキハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條　以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條　此規則ニ號テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クヘシ

解意ノ責

第二十四條　此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ヲ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主船長乘組人員各其責ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條　此規則ハ各地方官ニ於テ特ニ制定シタル港川其他內海ノ航行規則ノ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條　此規則ハ二艘以上ノ軍艦ニ護送セラルヽ船ニ適揭スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干渉セサルモノトス

雜船信號

第二十七條　危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々ニ施行スヘシ

晝間信號

（一）　凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト

（二）　萬國船舶信號書ニ揭載スル「NC」ノ雜船信號ヲ標スルコト

（三）　方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似スル物ヲ揭クル遠隔信號ヲ標スルコト

ト

夜間信號

（一）凡一分時每ニ一砲發チナスコト

（二）船上ノ發焰（タール桶油樽等チ燃燒スルノ類）

（三）各色各種ノ星火ヲ發射スル榴彈或ハ火箭チ一次一發ツヽ數分時每ニ打揭ク

ルコト

附則

西班牙國フイニステル岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノミ左ノ規則適用ニ付該地方航行ノ諸船ニ於テ之チ心得ヘシ

（甲）登簿噸數廿噸以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載シタル燈火チ揭クルチ要セサル時ハ他ノ航行船ト同樣ノ燈火チ揭クヘシ

（乙）流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見エ易キ場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ揭ケ其燈火ノ縱距離ハ六尺以上十尺以下チ隔テ又橫距離ハ其船ノ龍骨ト平行線ニ量リ五尺以上十尺以下ヲ隔ツヘシ但此二個ノ白燈ハ下ニ揭クルモノヨリ上ニ揭クルモノヨリ前方ニ置キ且晴天ノ暗夜ニ周回諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユヘキモノチ用フヘシ

（丙）釣絲チ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ流網チ以テ漁獵ニ從事スル船ト同一ノ燈火チ揭ケヘシ

（丁）漁獵ニ從事スル船其屬具ノ岩礁其他障碍物ニ固著セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同樣ノ燈火及霧中信號チ用フヘシ

（戊）漁船及甲板ナキ小船ハ何時ニテモ本條ニ依リテ揭クヘキ燈火ノ外ニ閃光ヲ發スルハ苦シカラス曳網爬網其他曳網ノ類チ用ヒ漁獵ニ從事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ總テ其船ノ後部ニ於テス

繫キタル時之チ船首ニ於テ發スルハ此限ニ在ラス

（己）漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日沒ヨリ日出マテノ間少クモ周回諸方一里ノ距離ヨリ見ユヘキ白燈チ揭クヘシ

（庚）霧中又ハ雪降中ニハ網ニ繫キタル流網掛及曳網爬網其他曳網ノ類チ用ヒ漁獵ニ從事スル船及釣絲チ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ二分時ヨリ多カラサル間歇チ以テ霧中號角ト號鍾トチ迭ヒニ鳴ラスヘシ

罰則

第二十八條　凡船舶合格ノ燈籠及ヒ信號器チ所持セス若クハ點燈及信號チ怠リ又ハ燈籠裝置チ過リタル者ハ貳圓以上武拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

○星火ヲ發スル榴彈其他無免許製造者罰金處分

十四年五月第三十三號追加及ヒ七八年廿七號改正ノ面

○遞信省令第十二號（明治十九年六月二日）

明治十八年（八月）第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭、信號焰管及ヒ銃彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○信號器船ニ備置方

○遞信省令第十三號（明治十九年六月二日）

海上衝突豫防規則中ニ揭ケル信號器ハ左ノ制限ニ從ヒ各船舶ニ備ヘ置クヘシ但蒸舟及ヒ甲板ナキ諸舟幷湖川ヲ限リ航行スル諸船ハ此限ニアラス

一外國航船

一大砲一門若クハ二門

裝藥十二個以上

但難船信號轟彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該轟彈十二個以上ヲ備フヘシ

一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　十二個以上

一信號焰管　十二個以上

一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一個

一黑色球　三個

一紅色球燈　三個

一號鍾　一個

一汽笛（汽船）　一個

一萬國船舶信號旗　一揃

一紅色球燈　三個

一號鍾　一個

一汽笛（汽船）　一個

一萬國船舶信號旗　一揃

○內國航船

一大砲一門若クハ二門裝藥六個以上

但難船信號轟彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該轟彈六個以上ヲ備フヘシ

一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　六個以上

一信號焰管　六個以上

一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一個

一黑色球　三個

一紅色球燈　三個

一號鍾　一個

一汽笛（汽船）　一個

一萬國船舶信號旗　一揃

○近海航船

一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　六箇以上
一信號焰管　六箇以上
一黑色球　三箇
一紅色球燈　三箇
但百海里以內ヲ航通スルモノハ前四項ノ信號器ヲ備フルニ限ニアラス
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一號鐘　一箇
一汽笛（滊船）一箇
一萬國船舶信號旗ノNC（難船信號）一組
○平水航船
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一號鐘　一個
一汽笛（汽滊）一個
○日本形回漕船　五百石以上ノモノ
一星火ヲ發スル火箭或ハ信號焰管　六個以上
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一個
一號鐘　一個

編者曰戸長ノ公證ヲ受ケルノ件ハ登記法第三十八條ヲ以テ廢止トナル

一萬國船舶信號旗ノNC（難船信號）一組
一日本形回漕船　百石以上五百石未滿ノモノ
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一個
一號鐘　一個

○船舶賣買書入質手續

○太政官第貳拾八號　輪廓付　（明治十年三月八日）

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年（九月）第百四拾八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定證書ニ本船管轄地戸長ノ公證ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サヽルニ於テハ其約定證文ハ裁判上尋常金穀貸借證書ト見做スヘシ
但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨ヲ具シ本船管轄地戸長役所ヘ屆置クヘシ
右布告候事

參看

○廻漕貨物取扱規則

○第百八十四號布告　（明治八年十二月）

第一條　廻送貨物ノ荷造リハ濡沾減損或ハ漏脫等ノ難ヲ防クヘキ樣務ヲ堅固ニシテ其品柄又ハ荷造ノ摸樣ニ依リテハ錠鎖或ハ封印スヘシ

第二條　穀物鹽類ノ俵物酒醬流液ノ樽物等總テ減損漏脫シ易キモノハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約束ヲ爲スヘシ

第三條　船主ハ荷造ノ粗糙ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防キ難シト思惟スルトキハ貨主ヘ其趣キヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ托セラルヽトキハ特殊ノ約定ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ

第四條　貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又約定ヲ爲サヽルトキハ濡沾減損或ハ漏脫等ノ難ヲ運漕中ニ生スルモ船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ

第五條　廻漕運賃ハ發船ノ甲地ニ於テ波戸場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ受取ルヘキ適當ノ地ト定メタル場所ヨリ着船ノ乙地ニ於テハ波戸場或ハ其船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ引渡スヘキ適當ノ地ト定メタル場所ノ外之ヲ取集メ及ヒ配達スルノ費用ナキモ合スルモノニアラス故ニ其取集及配達ヲモ船主ニ托スルトキハ貨主ハ廻漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及配達賃ヲ拂ハサルヘカラス

第六條　前條乙地ニ着船スルトキハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニヨリ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルトキハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルトモ船主ハ其責ニ任セサルヘシ但シ其報告スヘキ日時ハ必ス貨主ノ不適宜ノ時間ヲ以テスルトキハ之ニ生スル危險損失ハ船主ノ責ヲ免ルヘカラス

第七條　前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルトキハ船主ハ之ニ生スル危險損失ハ其責ニ任スト雖モ必ス危險損失ヲ生セサル樣之ヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲ爲スヘシ然ルトキ者相當ノ倉敷料番人賃其他之ニ屬スル費用ハ貨主ヨリ拂ハシムヘシ

第八條　廻漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運航賃ナルニ因リ其他運航ヲ畢ヘサル間ノ貨主ハ之ヲ拂フコトヲ拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ不足ヲ生スルトキハ貨主ハ其運賃ヲ拂フコトヲ拒ミ得ヘシ然レトモ其全量百俵何千個ヲ運送セシムルモ其一俵一個ニ付運賃幾許ト約定セサルトキハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數個數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀ナキヲ以テ之ヲ受取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルモ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘカラス

第九條　船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一

條及ヒ第二條ニ違ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ證シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルトキハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

但海上難船ノ災厄ニ罹ルモノハ危險受負法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シテ此限ニアラス

第十條　運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レトモ拂方ヲ怠ルトキハ船主ハ其受取ルヘキ貨物ヲ以テ若シ貨物ヲ受取リタル後ヲ其ヲ得ヘシ

○立船營業取締規則

○丙第五拾壹號　（明治十二年十月二日）

戸長

立船營業取締規則左之通相定候條營業人共ヘ可觸示此旨相達候事

立船營業取締規則

第一條　此規則ハ乘客保護及ヒ營業者取締ノ爲メニ設クルモノトス

第二條　船艇ノ間尺及ヒ艘數幷乘合人員ノ制限各所ヘノ賃金等詳明營業者ヨリ戸長役場ヲ經テ所管警察署ニ届出ツヘシ

第三條　船賃ハ許可ノ金額ヲ乘船場或ハ營業者門前ヘ必ラス掲示スヘシ

第四條　乘客多衆ナル時ハ制限ニ應シ別船ヲ出シ覆沒ノ患害ナキヲ要ス

第五條　外國人及ヒ老幼ノ乘客ハ別シテ注意スヘシ

第六條　風雨及ヒ滿水等ノ節ハ最モ注意スヘシ

第七條　風体怪シキカ身分不相應ノ物品ヲ携帯スル乘客或ハ强テ乘船ノ急速ヲ促ス者不審ト見受クルトキハ速ニ最寄警察署若シクハ巡行ノ巡査ニ密告スヘシ

○私立西洋形造船所幷造船員數届出

○乙第拾號　（明治十七年三月一日）

私立西洋形造船並造船員數等自今左ノ書式ニ做ヒ毎一ケ年分取調翌年一月限可届出此旨仰達候事

西洋形造船所幷造船員數等届書式

船ノ種類	船名	噸數	馬力	製造代價	造船工長族籍氏名	持主族籍氏名	造船所位置	創立年月
汽船	何々	何噸	何馬力	何圓	何府（縣）華士族平民何ノ誰	何府（縣）華士族平民何ノ誰	何府（縣）何郡（區）何町（村）何番地	何年何月
帆船	何々	何噸	何馬力	何圓	何府（縣）華士族平民何ノ誰	何府（縣）華士族平民何ノ誰	何府（縣）何郡（區）何町（村）何番地	何年何月

合計	何艘	何噸	何馬力	何圓	何人	何人

○船燈取締規則

○甲第百貳拾四號（明治十八年十二月二十五日）

客年九月甲第四十六號布達船燈取締規則別冊之通リ改正ス

右布達候事

船燈取締規則

第一條　船燈ハ管轄廳ノ檢印ヲ受タルモノニアラサレハ販賣スルヲ許サス

第二條　船燈製造方法ニ抵觸シタル修繕ヲ爲スヘカラス

第二條　製造人ニ於テ製造セル船燈ハ其種類番號ヲ詳記シ左ノ期限ヲ以テ縣廳ヘ屆出檢印ヲ受クヘシ

一自一月分四月十日限
　至三月分
一自七月分十月十日限
　至九月分

一自四月分七月十日限
　至六月分
一自十月分翌年一月十日限
　至十二月分

第四條　船燈ハ允許販賣所外ニ於テ販賣スルヲ許サス

第五條　船燈製造及販賣人ハ其製造及販賣高幷ニ賣渡人名ヲ詳記シ毎三ケ月ニ縣廳ニ屆出ヘシ

第六條　毎年二回四月（十月）港川内碇泊ノ船舶ニ就キ（船籍ノ自他ヲ問ス）船燈幷ニ其裝用法ヲ監査ス尤モ定期ニ拘ラス臨時監査ヲ行フコトアルヘシ

但西洋形船舶檢査規則ニ依リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小船等ハ此限ニアラス

第七條　前條ノ監査ニ於テ合格ト認ムルトキハ監査證書ヲ付與スルモノトス

但監査證ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ルマテハ各地方ヲ通シ該證書欄内ヘ其都度加書押印シ付與スルモノトス

第八條　前條監査證ハ船内見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第九條　第一條第二條第三條及第四條ニ違背シタルモノニ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

○船鑑札釘付ノ件

○乙第貳拾七號　（明治十七年四月十三日）

明治十六年四月第十三號布告船税規則第七條但書ニ依リ釘付スル鑑札ハ各所有主ニ於テ該船舶ノ艦外部後面ニ釘付スヘシ

右布達候事

○新規造船解船及賣買等届出

○乙第貳百三號　（明治十四年十二月二十日）

耕作一途ニ用ユル免税船撿印願ヲ除ノ外艀漁船幷海川小廻船新規合船解船破船賣買譲受渡及ヒ諸車新調破解賣買譲受渡共自今願ニ不及候條其都度所管郡役所ヘ可届出（賣買譲受渡ハ双方連署スヘキモノトス且届書ハ總テ正副貳通差出スヘシ）此旨布達候事

但船車新調届貳通ノ内一ハ番號ヲ朱記可下付ニ付該船車ニ付シタル番號ト必得其半期ニ課スル國（地方）税上納ノ上撿印可申受且破解ノ分ハ撿印切取届書ト共ニ郡役所ヘ還納スヘシ

○園部川浚渫入費償却トシテ諸物貨ヨリ収入

○乙第百九十六號　（明治十四年十二月十日）

常陸國東茨城郡小川村ヨリ園部川浚渫ニ付入費償却トシテ該川岸出入之諸物貨ヨリ

壹駄ニ付金三厘ツヽ、本年十一月ヨリ來ル明治二十九年十月迄向十五ヶ年間収入致シ度旨願出ニ依リ聞届候條此旨布達候事

○第十九章　地理

○公用土地買上規則

○第百三十二號達　（明治八年七月）

公用土地買上規則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

第一則　公用土地買上トハ國郡村市ノ人民所有ノ土地ヲ買上ルヲ云フ

但國郡村市ノ保護便益ニ供スルタメ人民ニテ幾道竈線上水等ノ六土工ヲ起スハ其事業ニヨリ特別官許ノ上此規則ニ準スルヲ得ヘシ

第二則　公用買上ハ必其地ヲ要セサルヲ得サルニアラサレハ之ヲ行ハサルモノトス故ニ人民之ヲ拒ムヲ得ス

但其地ニ属シタル植物建造物等モ又本文ニ同シ

第三則　院省使ニテハ左ノ事由ヲ内務省ニ照會内務省ヨリ地方官ニ諮詢シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル上該廳ヨリ大臣官ニ上陳允裁ヲ得ルモノトス

縣府縣ニテハ左ノ事由ヲ内務省ニ稟請シ内務省ヨリ大政官ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス内務省ニ照會又ハ稟請スヘキ事由左ノ如シ

一土地ヲ買上ノ事由　一地ヲ必要スルノ事由

一該地ノ番號　一該地ノ地種

明治八年太政官第百六十號但書追加

一該地ノ主　一東西何程南北何程　一方積何程

但該地ノ實測圖ヲ添ル者トス實測圖ハ近隣ノ地形ヲモ略記スヘシ

第四則　公用ノ爲メ買上ル地價ハ券面ニ記シタル代價タルヘシ然レトモ地價相違ヲ生セシ時ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ商議ヲ以代價增減スルコトアルヘシ

但明治五年二月十四日以前濱地又ハ用地中付爲手當作德米等ヲ渡シ來リタル土地ハ同年ヨリ同七年迄三ケ年ノ貢納石代平均ノ價ヲ以テ作德米七ケ年半ノ金額ヲ一時ニ下渡シ買上ルモノトス

第五則　買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ケサルトキハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ移轉料ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ協議タルヘシ

第六則　買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ルトキハ地價ノ外別ニ移轉料ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト土地ヲ買上タル該廳トノ協議タルヘシ

第七則　土地ヲ買上ヘキ該廳ハ植物建造物等ヲ併セテ買上ンコトヲ求ルトキハ第五則ノ通タルヘシ

第八則　土地植物建造物等ノ買上代價及移轉料ノ見込所有者ト該廳ノ間ニ許多ノ違違ヲ生シ熟議ニ至リ難キトキハ双方ヨリ評價人各一人ヲ出シ地方官之ヲ折衷シテ內務省ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムルモノトス

第九則　地方官土地及植物建造物等ノ買上ヲ公達シタルトキハ直ニ買上代價ヲ渡スヘシ

第十則　人民買上代價ヲ受取タルトキハ買上ラレタル土地植物建造物等ヲ三十日以內ニ該廳ト別段ノ契約ヲ結ヒタルハ特別トス

第十一則　土地買上ノ際事變ノ急施ヲ要スルトキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ通シ三十

明治十五年第六十四號追加

明治十五年第六十號改正面

日以上ノ期日ヲ定メ代價ヲ申出ヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付爭方見込相協ハサルトキハ其期日以上ノ期日ヲ定メ其建物アル地ハ拂日以上建物ナキ地ハ十日以上ノ期日ヲ定メ其現在ノ實況及ヒ其見込ノ代價ヲ詳記シ評價人ノ意見書ヲ添ヘ地方官ノ認印ヲ受置クヘシ

第十二則　第十一則ノ場合ニ於テハ所有者ノ請求ニヨリ土地ニ付テハ券面地價十分ノ八ノ金額建造物等ノ移轉料又ハ代價ニ付テハ假定ノ金額（地方官實況ニヨリ之ヲ定ム）ヲ渡置キ代價決定ノ上精算スヘシ

○畦地規則

○乙第七拾五號　（明治十年三月三十一日）　各區區戶長

地租改正事務局ヨリ畦地規別ノ儀ニ付別紙之通達相成候條爲心得此旨相達候事

畦地規則

第一條　凡ソ甲乙兩地ノ中間ニ在ル畦地ハ上層地ノ所屬トスヘシ其從來ヨリ下底所屬ノ確證アルモノハ舊貫ノ儘ニ據置クヘシ

第二條　畦地ノ險欹シタルモノニシテ假令中間ニ小樹ノ類茂立スルトモ土砂ヲ扞止スルマテニ止マリ他ノ用ヲ爲サヽルモノハ縄外トシ本地券面腹書ニ外何番地境崖地縄外所屬ノ趣ヲ記シテ其所屬主ニ付與スヘシ其ノ傾斜ノ甚シカラス開墾シテ桑

茶蔬菜等ヲ植付得ヘキ者ハ本地一畝ニ付メ取調ヘシ

第三條　従前ヨリ畦地半腹ヲ以テ境界トセル畦上ハ上條ニ照準シ實況ニ應シ各箇ニ處分スヘシ

第四條　第貳條ノ桑蔬菜等植付得ヘキ畦地ニシテ未タ所有者之ナク拂下ケヲ要スルモノアルトキハ先ツ上屬地主ノ望ニ任セ望ナキトキハ下底地主ヘ拂下クヘシ但シ斜面ノ極メテ緩ナルモノニシテ必スシモ上層地ニ屬セシムルヲ要セサル者ニテ上下主共ニ拂下ケヲ願フトキハ雙方ノモノヘ入札法ヲ以テ拂下ルカ又ハ半腹ヲ界トシ雙方ヘ拂下ル事モアルヘシ

第五條　石垣又ハ竹木柵等ヲ以テ土止ヲナセル畦地ハ從前ノ證迹ニ據テ其所屬ヲ定ムヘシ即チ土止メ及ヒ修理等上下主ノ内一方ニテ爲シ來レル者ハ其一方ノ所屬トシ雙方合力シテ爲來レル者ハ雙方ノ共有トシ若シ地主轉換シテ證跡ノ徵スヘキナキ者ハ以テ上層地ノ所屬トナシ第貳條ノ如ク本地券面腹書ニシテ所屬主ニ付與スヘシ但シ雙方ノ共有トナスモノハ兩券面共ニ其趣ヲ腹書スヘシ

第六條　右ノ如ク其所屬ヲ一定シ其修理ハ所屬主ニ於テ爲サシムヘシト雖モ畦上下地主ハ其所屬ノ何レニ在ルヲ問ハス均シク該畦地保全ノ義務アルヲ以テ畦上崖下共ニ其崩壞ヲ致スヘキ事功ヲ起スコトヲ得サルモノトス

○各地ニ唱フル字改稱變更不致樣可心得

各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審判歷史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ候條漫ニ改稱變更不致樣可心得此旨相達候事

但實際已ヲ得サル分ハ該事由ヲ具シ願出サス可シ

○官有地拂下並貸下ノ義相定

官有地拂下並貸下ノ義左ノ通相定候條此旨布達候事

但明治九年（五月）第百六拾八號布達ハ廢止ス

一凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳ヘ差出スヘシ若之ヲ差出サヽルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス

一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ既納代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシムヽ之カ爲メ金利賠償等ヲ求ムルヲ得ス

一凡官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セザルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ假令ヒ如何ナル勞費アルモ其償ヲ求ムルヲ得ス

一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タルモノハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人ヘ書入又ハ質入ヲ爲ス事ヲ得サルモノトス

但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲ス事ヲ得ヘシ

○官有地拂下並拝借出願手續

○甲第九拾壹號　（明治十八年九月十七日）

官有地拂下並ニ拝借出願手續左ノ通相定候條此旨布達候事

但明治十一年（九月）丙第九拾四號布達ハ廢止ス

官有地拂下幷拝借出願手續

第一條　種々ノ緣故ニ由リ官有地ノ拂下ヲ願ハントスルモノハ別紙第壹號書式ニ照準願書差出スヘシ

第二條　凡ソ官有地ノ拝借ヲ願ハントスルモノハ別紙第貳號書式ニ照準願書差出スヘシ

第三條　前二ケ條ノ願書ニハ本地ハ勿論周圍接續ノ地目及官民有ノ區別等其景況ヲ明瞭ニシタル圖面ヲ添付スヘシ

第四條　官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下ノ許可ヲ得タルモノハ指令到達ノ日ヨリ十日以內ニ別紙第三號書式ノ請書可差出且代金未完納中ハ抵當トシテ第四號書式ノ證書ヘ地券ヲ添ヘ差出スヘシ

第五條　官有地拝借ノ許可ヲ得タルモノハ指令到達ノ日ヨリ十日以內ニ別紙第五號書式ノ請書差出スヘシ

第六條　借地料ハ拝借年季中ノ者及ヒ六月以前許可ノ者ハ其年十二月迄ノ分ヲ七月五日迄ニ七月以降十二月迄ニ許可ノ者ハ其年ノ料金ヲ翌年一月廿日迄ニ相納ムヘシ、但初年月割料金ハ其期月ニ至リ相納ムヘシ

第七條　官有地ノ貸下年季ハ五ケ年以內トス滿期ニ至リ返地スル者ハ滿期后十日以內ニ其旨ヲ届出ツヘシ尚ホ借用セントスル者ハ滿期ノ二ケ月前更ニ第二條ニ準シ願出ツヘシ

但期限中ト雖モ官用又ハ他ニ差支ヲ生スルトキハ返地セシムルコトアルヘシ

第壹號

官有地御拂下願

國郡町（村）地內

字番

一地目反別何程　或ハ何坪

此拂下代金何程　但（壹反歩或ハ百坪ニ付）何程

此立木　何本

此拂下代金何程　（木立アル例）

内

何(木種)　一本　　但(長何間目通何尺)

此代金何程

何　何本　　但長何間半目通何尺何寸　(長目通ノ同一ナル)(モノハ合記スヘシ)

此代金何程

何　何本　　但小苗木　(目通尺未満ノモノ)

此代金何程

右何々事故詳記シ證左書類アルモノハ本書及寫トモ悉皆添付スヘシ

年　月　日　縣國郡町(村)番地族籍

縣　令　宛　願人　何　誰　印

前書出願之趣事實相違無之ニ付奥書調印候也

(地元戸長)　何郡何町(村)外何ヶ村聯合

第二號　戸長　何　誰　印

官有地拝借願

國郡町(村)地内

字番

一地目反別何程　或ハ何坪

此拝借料(一ヶ年又ハ一ヶ月)金何程　但(壹反歩或ハ百坪ニ付)金何程

但何ヶ年(月)季

右地所何々用(使用ノ事故ヲ明記スヘシ)ノ爲メ拝借仕度候依テ町(村)内ヘ協議及候處聯カ支障筋無之候間御聞届被下度尤モ御許可ノ上ハ前書之料金期限通上納可仕候依之繪圖面相添奉願候也

年　月　日　縣國郡町(村)番地族籍

縣　令　宛　拝借人　何　誰　印

保證人　何　誰　印

仝　何　誰　印

前願支障之有無篤ト取調候處支障筋一切無之ニ付奥書調印候也

(地元戸長)　何郡何町(村)外何ヶ村聯合

第三號　戸長　何　誰　印

御請書

國郡町(村)地内
字番

一地目反別何程
　此代金何程
地中立木何程　(立木アルノ例)
　此代金何程

右地所立木何々ノ事故ニヨリ御拂下出願仕候處今般(何年何月ヨリ何年何月迄年賦月賦或ハ延納)御聞届相成候ニ付テハ明治十八年甲第八十九號御布達遵守スヘキハ勿論代金期限通無相違上納可仕若シ萬一期限ヲ過キ上納セサル場合有之ニ於テハ右拂下御取消相成候共聊カ苦情不申上候依之御請書差上候也

年月日　　右

縣國郡町(村)番地族籍
　拂受人　何　誰
縣國郡町(村)番地族籍
　保證人　何　誰印
縣國郡町(村)番地族籍
　仝　何　誰印

戸長ニ於テ奥書調印スヘシ

十九年甲第十四號更正ノ面

第四號

地所抵當證書

國郡町(村)地内
字番
一地目反別何程　或ハ何坪
　此拂下代價何程

右地所(今般何年何月ヨリ何年何月迄年賦月賦或ハ延納)ニテ御拂下相成候ニ付テハ代價未納中該地券ハ抵當トシテ御廳ヘ差出シ置候也

年月日

縣國郡町(村)番地族籍
　拂受人　何　誰印

縣　仝　宛

戸長ニ於テ式ノ如ク公證スヘシ

(坪以上市街宅地ニ限ル)

第五號
印紙

御請書

國郡町(村)地内
字番

縣國郡町(村)番地族籍

一地目反別何程

此拜借料（一ヶ年又ハ一ヶ月）金何程　但（壹反歩或ハ百坪ニ付（金何程

但（何年何月ヨリ何年何月迄）何ヶ年（月）季

右地所何々用ノ爲メ拜借奉出願候處今般御聞屆相成候ニ付テハ明治十八年甲第八拾九號布達竪ノ相守拜借料金期限通無相違上納可仕萬一本人不納之節ハ保證人ニ於テ弁納可仕候且拜借年期中ト雖モ官用其他御差支相生シ候トキハ何時タリトモ御達次第速ニ返上可仕而シテ該地ニ係ル勞費等有之候共聊カ苦情不申上候依之御請書差上候也

年　月　日

拜借人　何　誰

右

何　誰　印

國郡町（村）番地族籍

保證人　何　誰　印

國郡町（村）番地族籍

保證人　何　誰　印

縣　令　宛

戸長ニ於テ奥書調印スヘシ

○官有地拂下貸下取扱振

（明治十八年九月十六日）

郡　長

戸　長

官有地拂下并ニ貸下之儀今般甲第八十九號ヲ以テ布達候ニ付テハ右取扱振左ノ通相定候條此旨相達候事

一官有地所並ニ立木拂下許可候トキハ該代金徴收ノ上地所立木引渡スヘシ

但年賦月賦及延納ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

一地所立木拂下代金或ハ借地料ヲ期限通上納セサル者アルトキハ其旨直ニ届出ツヘシ

○官有地拂下貸下等ニ關スル本縣布達ハ別段明文ヲ掲ケサルトキハ農商務省主管ノ官有地ニ關セス

○第百十八號（明治十八年十二月十日）

官有地拂下無代下渡貸下地所處分ニ關スル本縣布達ハ別段明文ヲ掲ケサルトキハ農商務省茨城山林事務所主管ノ官林地ニ關セサル儀ト心得ヘシ

右布達候事

○官有之川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下不相成

○甲第四號（明治十九年一月十五日）

官有之川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下貸下不相成且ツ從前既ニ貸下タル者ハ當期限リ返地スヘシ

但治水上ニ妨害アル搆造ヲ爲サス又ハ樹竹ノ栽培セサル者ニシテ物揚場等之如キ公益上ニ使用スル者及ヒ熟田畑ハ貸下ヲ爲スコトアルヘシ

右布達候事

○地籍編製規則

○乙第五拾五號　（明治十六年五月十五日）

地籍編製規則別冊之通相定候條此旨布達候事

但製圖雛形ハ追テ達スヘシ

地籍編製規則

第一章　綱領

第一條　地籍編製ハ土地ノ經界ヲ釐正シ廣狹ヲ測量シ名稱ヲ分明ニシ所有ヲ判定スルニ圖籍ヲ以テスル實ニ國家緊要ノ典籍ニシテ一日モ缺クヘカラサル者ナリ業ニ從事スルモノ宜シク此旨趣ニ悖戻セサル樣要ス

第二條　地籍ハ全國地籍府縣地籍郡地籍村町地籍ノ五種アリ其村町地籍ハ官民有地ノ別ヲ問ハス地元村町ニ於テ之ヲ編製スルモノトス郡地籍以上ハ其管廳ニ於テ編製管理スルヲ法トス

第三條　地籍ハ一ケ年毎ニ土地ノ變換ヲ添削更正スルモノトス

第二章　土地經界

第四條　土地ノ經界ヲ釐正スル處地籍編製ノ主要トスル處ナレハ各村町各字各一筆限四至ノ經界ヲ判明ナラシムルヲ以テ第一着ノ事業ナリトス

第五條　村町四至ノ經界ハ其村町戸長及ヒ總代人立會ノ上證迹又ハ慣例等ニ據リ一目判明ナラシムルカ爲メニ此經線ヘ適宜ノ目標ヲ立ツヘシ或ハ深山幽谷等ニテ簿書ノ證スヘキ慣例ノ因ルヘキモノナク或ハ從來爭論アリ其經界確定セサルモノヽ如キハ更ニ兩郡村町協議ノ上其旨趣ヲ詳記シ實地明瞭ナル圖面ヲ添ヘ双方連署申立ツヘシ

第六條　新ニ經界ヲ定ムルハ將來ノ錯雜ナカラシムルヲ緊要トス故ニ之レヲ釐正スルハ水流ヲ界トスルモノハ其中心ヲ以テシ山頂ヲ界トスルモノハ雨水分派スル所ヲ以テシ道路ヲ界トスルモノハ其中央ヲ以テ區別スル目的トナスト雖ニ別ニ其地方ノ慣習等アルモノハ其慣習ニヨルモ妨ケナシ

第七條　土地經界ハ前條々々ニヨルト雖ニ地租改正ニ當リ已ニ決定シタルモノハ此限ニアラス

第八條　飛地錯雜地等耕宅地改租ノ際併裂分合未濟ノ分ハ此際釐正スヘシ因テ村々協議ノ上改定ノ見込ヲ立テ地形明瞭ノ地圖ヲ副ヘ双方連署ヲ以テ申立ツヘシ

第九條　從來入會地ト稱ヘ甲乙村方所屬未定ノ地ハ關係村々協議ノ上前條ノ手續ニ據リ申立ツヘシ

第十條　前條ノ場合ニ於テ村々ノ協議ニ至ラサルモノハ地形明瞭ノ地圖ヲ調製シ双方ノ意見ヲ申立ツヘキモノトス

第十一條　一村町内各種ノ經界ハ戸長及ヒ地主立會證迹又ハ慣習等ニ因リ夫々ノ經界ヲ正シ目標ヲ立ルカ又ハ簿冊ニ明記スルカ何レモ將來ノ錯雜ナカランコトヲ要ス

第十二條　各地ニ唱フル字ノ義ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多シ土地爭訟ノ審判歷史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ付漫ニ改稱變更セサルモノトス

但實際已ムヲ得サル分ハ其事實ヲ詳具シ願出ヘシ

第十三條　耕地等ニ屬スル畦畔崖岸等ハ其上部ノ土地ニ屬スヘキモノナリト雖モ別ニ證迹又ハ其部落ノ慣習等アルモノハ之ニヨリテ定ムヘキモノトス

第三章　丈量方積

第十四條　地籍ハ總テ水平面ヲ實測スルヲ法トスト雖モ暫ク課稅ニ用ユル反別（改租反別）ヲ兼用スルヲ得ヘシ依テ耕宅地ハ改租ノ際調查セシ反別山ハ斜面側面ノ反別ヲ登錄スヘシ尤堤塘道路畦畔ノ如キハ平面積ノ反別ヲ量ルモノトス

第十五條　土地ヲ度ルハ曲尺六尺ヲ壹間六寸ヲ壹分六分ヲ壹厘ト稱シ總テ何萬何千何百何拾何間何分何厘ヲ以テ計算スヘシ

第十六條　土地ノ方積ヲ求ルハ方壹分（則チ六寸）ヲ壹勺拾勺ヲ壹合拾合ヲ壹坪トシ總テ何萬何千何百何拾何坪何合何勺ト稱シ之ヲ反別ニ更ルニハ三千坪ヲ壹町歩トシ三百坪ヲ壹反歩トシ卅坪ヲ壹畝歩トシ壹畝歩以下ハ何拾何歩何合何勺ト稱シ勺位ニ止メ餘ノ端數アル者ハ切捨ヘシ

第十七條　土地ノ丈量ハ用術ノ如何ヲ問ハス眞正ヲ得ルヲ旨トシ務メテ過不及ナキヲ要スト雖モ高山深谷或湖沼等容易ニ丈量ナシ難キ地ハ先以テ四至ノ經界ヲ詳明ニ簿冊ニ記載シ足度或目量等ニテ凡反別ヲ取調ル乎又ハ反別不詳ト記載スルモ妨ケナキ者トス

第四章　名稱

第十八條　地所ノ名稱ハ明治七年第百二十號全八年第百五十四號全九年第八十八號全十三年第四十三號布告ニ因ルヘシト雖モ尙左ノ細目ニ倣ヒ類附スヘシ

一皇宮地（皇居離宮等ヲ云フ）　皇宮地附屬地（皇宮地ニ屬スル土地ヲ云フ）

一神地　官國幣社（官國幣社境內地ナリ但大中小ヲ區別スルモノトス）縣社（縣社境內地ナリ）鄉社（村社ニ列セサル其以下神社ノ境內地ナ

リ）

一官用地　縣廳用地（本廳敷地警察本分署監獄署郡役所等ノ敷地此部ニ編入ス）
工部省用地（電信分局）司法省用地（裁判所）

一山（山ノ總稱ナリ）　金山（金鑛ヲ發堀スル山ナリ）以下銀鐵銅鉛ノ屬之ヲ類推スヘシ）　石斫山（石ヲ斫他方ヘ輸出スルモノハ、勿論該村堤塘築石等ニ用ユル分共此部ニ編入ス）　砥石山（砥石ヲ堀採スル所ナリ）　石炭山（石炭ヲ堀採スル所ナリ）

一水源涵養山（飲水田水等需用ノ爲メ伐木ヲ許サス水源涵養ニ供スル山ヲ云フ）　用材山（土砂扞止山（土砂ノ流出ヲ扞防スル爲メ伐木ヲ禁スル山ヲ云フ）

松杉檜ノ如キ家屋船艦等ノ用材ニ供スル木種ノアル所ナリ）　雜木山（抱櫟其他薪炭材等ニ供スル木種ノアル所ナリ）　柴草山（柴草ヲ採薪シ及ヒ禾草ヲ肥養ニ刈取ノ場所ナリ）　芻秣山（芻牧ヲ刈ル場所ナリ但人民柴草芻秣ニ兼用スルモノハ其用ユル多キニ依テ名稱ヲ付スヘシ）

一林（樹木ノ叢生スル所ナリ尤山ニ林列スルモノ等私有ノ權理ヲ失セシ地所ナリ）　大率平坦ナルモノ及ヒ曠野河海ニ接續スル平坦ノ地ニアルヲ林トス但暫ク故租ノ際調査セシ名稱木立竹立ヲ用ユルモ妨ケナシ）

一藪（叢竹ノ叢生スル所ナリ但前項ニ仝シ）

一原野（耕地林藪等ニアラサル廣平ノ土地ナリ其廣平ノ土地ハ荒蕪柴草ノ生否ニ關セス凡テ原野ト稱ス但草生地ヲ之地等此部ニ入ル）

一荒蕪地（萩場其他不毛地等ヲ人民開墾ニ着手シ事故アリ成功セス草地トナル場所或ハ田畑等廢棄シテ起返シセサルモノ等ヲ云フ）

一川（水ノ兩地間ノ低所ニ一線ノ水路ヲ通シ流レテ海ニ入ルモノナリ）

一附寄洲（泥砂ノ水涯ニ堆積シテ漸ク陸地ヲナスモノナリ）

一沼（天然ノ水溜リ淺クシテ泥アルモノヲ云フ）

一池（耕地涵養魚鳥水草等ノ利ヲ獲ンカ爲メ地ヲ鑿ヶ堤塘ヲ築キ水ヲ蓄フルモノナリ溜池ト稱スモノ即チ此部ナリ但沼ト形質相近キヲ以テ舊唱判然ナラス今天造ヲ沼トシ人爲ヲ池トス）

一溝渠　耕地灌漑又ハ水車等ノ用水及惡水ヲ流通スル水路ノ總稱ナリ）

一堤塘（土石等ヲ以テ築キ水ノ流溢ヲ壅遏スルモノナリ池堤川堤海堤共此部ニ編入ス）

一道路（人馬ノ往還スル所ナリ其國縣里ノ區別ハ種類等級ニ從フヘシ）

一畦畔（田畑ノ界ニアルモノナリ）

一崖岸（水崖ノ高キ所道路川溝田畑宅地等ノ際限ニアルモノナリ）

一冷泉場（人身ニ藥効アル冷泉湧出ノ地ナリ）

一河岸地　物揚場（波止ヲ設ケ諸物品ヲ船艦ヨリ上下シ或ハ筏ヲ陸揚スル所ヲ

云フ）物置場（屋宇ヲ結構シ前條ノ諸物品ヲ蓄藏スル所ヲ云フ）
一波止場（海邊ニシテ人工之ヲ爲シ船舶ノ碇泊ニ便ナラシメ傍ラ物貨陸揚舟積ノ用ニ供スルモノナリ）
一電信架線柱敷地（電信ヲ通スル架線柱ノ敷地ナリ）
一燈臺敷地（航海緊要ノ場所ヘ點燈ノ結構ナシタルモノナリ）
一舊跡（古戰場古城蹟慶藩以來ノ慶城此內ニ加フ有名古人ノ住跡等ナリ人民ノ口碑ニ傳稱スルモノモ曖昧トシテ古史ノ徵スルニ由ナク浮說ニ流ルヽカ如キハ之ヲ省ク〳〵シ）
一名所（風光佳致天造ノ美アル有名ノ地ニシテ一區畫ヲナシタルモノナリ）
一公園地（衆庶ノ偕樂園ニ定メシモノヲ云フ）
一揭示場（市街鄉村ニ屬スル布告達書ヲ揭示スル場所ナリ）
一堂宇敷地（屋宇ヲ構ヘ佛像等ヲ設置セルモノヲ云フ）
一墳墓地（目今埋葬ヲ要セサル古墓或ハ無緣ノ地藏塚等ヲ云フナリ）
一埋葬地（屍ヲ埋葬スル土地ナリ）
一燒場（屍ヲ火葬スル場所ナリ）
一寺院敷地（寺院境內地ナリ）
一學校敷地（學術傳習ノ場所ナリ其師範醫學中小學等ノ別アルハ其種類ニ從フヘシ）

一說教所敷地（社寺境內ノ外ニ設クル神道及ヒ諸宗ノ敎法ヲ說ク場所ナリ）
一病院敷地（人身ノ疾病ヲ醫療スル場所ナリ）
一公倉敷地（凶歲豫備等ノ爲メ人民共合シテ穀類等ヲ蓄藏スル場所ナリ）
一田（水田ナリ）
一畑（陸田ナリ）
一宅地（人ノ居住スル屋宇アル一區域ノ地ナリ）
一鹽濱（溝渠ノ設ケナク直ニ海濱ノ砂場ニ潮ヲ注キ以テ製鹽スル場所ナリ）
一試作地（新ニ田畑ヲ開キ之ニ種藝シ熟否ヲ試ルノ地ナリ）
一荒地（天變ニ因テ崩壞流潰シ原地ノ形容ヲ失シ其用ヲ爲サヽル地ノ總稱ナリ）
一牧場（牛馬羊豚ノ類ヲ畜養スルノ地ナリ）

第十九條　改租ノ際一筆ノ內書ニ取調タル現々タル社堂其他ノ種類ハ別ニ顯ハスニ及ハスト雖モ本地ノ外書ニナシタルモノハ別ニ類集シテ揭クヘキモノトス

第二章　地籍地圖

第二十條　各種地籍ハ總テ繪圖ヲ併備スルヲ法トス村町地籍ハ外ニ字限ノ繪圖ヲモ調製スヘキモノトス

第廿一條　村町全圖ハ凡實地三千分ノ一（則チ十間ヲ曲尺二分トス）ノ比例ヲ以テ調

製スル、モノトス但大村ニシテ亘多ノ幅員ヲ要スル、モノハ山或ハ河川溝渠等ノ經界分明ナル所ヲ以テ區別シ切圖トナスモ妨ケナシ

第廿二條　字圖ノ幅員ハ別ニ定限ナシト雖モ大約美濃紙二枚ノ内一字ヲ寫スヘシ若區域廣濶ニシテ一枚ニナシ難キモノハ判明ナル經界ニヨリ分裂二枚トナスモ妨ケナシ尤モ此ノ如キハ必ス何字ノ一二ト記號スヘシ

第廿三條　地籍及地圖ハ別紙雛形ニ倣ヒ各三通ヲ編製シ郡役所ヲ經由シテ縣廳ヘ差出スヘク縣廳ニ於テハ之レヲ檢査シ一通ハ縣廳ニ備置キ一通ハ郡役所ヘ一通ハ其村町ヘ下付スヘキモノトス但地圖ハ四隣村町連署シテ差出スヘシ

第　六　章　土　地　番　號

第廿四條　全村中數字アルモノハ之ニ番號ヲ附スヘキモノトス

第廿五條　每筆ニ附スル番號ハ分テ甲乙二類トス甲號ハ改租調査ノ爲ニ設ケタルモノヲ甲何番ト稱シ其乙號當度ノ調査ニ附スル番號ヲ乙何番ト稱シ其村町適宜ノ場所ヨリ始メ可成地勢順序ヲ失セサルヲ緊要トス

五百四

字何々地籍

何郡　村　町

地種	番號	地目	反別	名受者在籍名	受
官	一	甲	一	神地	何反歩
民	二	甲	三	墳墓地	何畝歩
民	一	甲	四	宅地	何反歩
官	四	甲	五	寺院	何畝歩
官	二	甲	六	警察署	何反歩
官	三	乙	一	川	何反何畝歩
官	三	乙	二	溝渠	何畝歩
民	一	甲	七	田	何畝何歩
民	一	甲	八	畑	何反何畝歩
官	二	甲	二	藪	何反歩
民	二	甲	三	墳墓地	何畝歩
民	一	甲	四	宅地	何反歩
官	四	甲	五	寺院	何畝歩
官	二	甲	六	警察署	何反歩
官	三	乙	一	川	何反何畝歩
官	三	乙	二	溝渠	何畝歩
民	一	甲	七	田	何畝何歩
民	一	甲	八	畑	何反何畝歩

何之誰外何人

茨城縣下何國何郡

何　村（町）

用紙ハ延紙ヲ用ヒ袋綴ニスルモノトス

明治何年

地籍

五百五

反別

此譯

官有地反別

內譯

反別

內

皇宮地反別

內

皇宮地付屬地反別

神地反別

內

官國幣社反別

縣社反別

鄉社反別

村社反別

小社反別

何國何郡何村(町)

第一種

反別

內

官用地反別

內

縣廳敷地反別

警察本署敷地反別

警察署敷地反別

監獄署敷地反別

懲役場敷地反別

郡役所敷地反別

警察分署敷地反別

官倉敷地反別

陸軍省用地反別

工部省用地反別

內

電信分局敷地反別

司法省用地反別

第二種

内
裁判所敷地反別
内
山反別
内
金山反別
銀山反別
鐵山反別
鉛山反別
石炭山石砿山礫石山做之
水源涵養山反別
土砂扞止山反別
用材山反別
雜木山反別
丘陸反別
林反別

水源涵養風防其他ノ種類ヲ別ツ山ノ例ニ做フ
藪反別
原野反別
荒蕪地反別
河川反別
沼反別
池反別
溝渠反別
堤塘反別
道路反別
冷泉反別
河(海)岸地反別
内
物揚塲反別
物置場反別
電信架線柱敷地反別
燈明臺敷地反別

舊跡地反別
名所地反別
公園地反別
堂宇敷地反別
墳墓地反別
埋葬地反別
燒場反別
揭示場反別
陸軍省付屬地反別
反別
內
寺院敷地反別
學校敷地反別
諏敎所敷地反別
病院敷地反別
醫學校敷地反別
民有地反別

內譯
反別
內
田反別
畑反別
畦畔反別
宅地反別
內
社地反別
寺院敷地反別
堂宇敷地反別
學校敷地反別
公倉(社倉)敷地反別
製鹽場反別
水車場反別
鹽濱反別
試作地反別

内
田反別
内
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
畑反別
内
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
山反別
内
用材山反別
雑木山反別
水源涵養山反別
土砂扞止山反別
柴草山反別
笏秣山反別

石炭山反別
石斫山反別
砥石山反別
種類毎ニ區別シテ記載スヘシ
林反別
種類ヲ分ツ山ノ例ニ倣ヒ何々林ト記載スヘシ
牧場反別
秣場反別
荒地反別
内
田反別
内
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季
畑反別
内
反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季

反別　何年ヨリ何年迄何ヶ年季

反別　内

郷社反別
村社反別
池反別
溝渠反別
堤堤反別
道路反別
掲示場反別
墳墓地反別
埋葬地反別
燒場反別
斃牛馬捨場反別

右之通相違無御坐候也

右村
總代　何之誰
戸長　何之誰

第二種

年月日

茨城縣令宛

○地籍製圖雛形

○第九拾壹號　（明治十六年八月十一日）

本年乙第五十五號但書製圖雛形別紙ノ通ニ候條右ニ照準調製スヘシ此旨布達候事

但圖面上本村並四隣村總代人モ調印候儀ト心得ヘシ

（別紙製圖雛形略ス）

○墓地及埋葬取締規則

○第貳拾五號　輪廓付　（明治十七年十月四日）

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條　墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條　墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條　死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條　區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條　葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條　凡ソ碑表ヲ建設セントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得

得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノハ亦之ニ準ス

第八條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ稟出スヘシ

右布達候事

○古墳發見ノ節申出

○乙第三十七號　（明治十四年三月十四日）

上世以來御陵墓所在未定ノ分御取調中ニ付荒蕪無地開墾ノ節口碑流傳ノ場所其他古墳ト相見候地ハ私有地タリトモ猥リニ發堀致間敷尤自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中圖ラス古墳ニ堀リ當ラ候樣ノ次第有之候節ハ口碑傳說ノ有無ニ拘ハラス凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名並近傍ノ字等ナモ取調所管郡役所ヘ可申出此旨布達候事

○墳墓地及埋葬取締規則細則

○甲第四十四號　（明治十八年五月四日）

墓地及埋葬取締規則細則別紙之通相定候條此旨布達候事

但明治十七年（三月）乙第拾八號布達ハ廢止ス

墓地及埋葬取締規則細則

廿年令甲第三十六號及十九年令甲第四十九號削除ノ面

第一條　墓地ハ從前許可シタル者ニ限ル

但己ムコトヲ得サル事情アリテ新設廢止若ハ其區域ヲ伸縮セントスル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ第一號及ヒ第二號書式ニ倣ヒ地元戶長幷衞生委員ノ奥印ヲ受ケ出願許可ヲ受クヘシ

一　耕地宅地ニアラサル民有地ニ係ルトキハ郡役所ニ出願スルモノトス

二　前項外ノ地及墓地ヲ取狹メントスルモノハ縣廳ニ出願スルモノトス

第二條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ノ地ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ニ限ルモノトス

第三條　墓地ヲ取狹メ又ハ廢止スルトキハ其遺骨ヲ改葬シ素地ニ復スルモノトス

但飲料ニ供スル井ヲ穿ツコトヲ得ス

第四條　墓地ハ種族宗旨ヲ別カタス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區シテ其劃內ニ埋葬スルモノトス

第五條　傳染病（虎列刺痰疹窒扶秘痘瘡）死屍埋葬所ハ墓地ノ一隅ニ區畫ヲ定メ傳染病死者埋葬地ナルコトヲ標示スヘシ

但火葬遺骨ノ埋葬ハ本文ノ限リニアラス

第六條　墓地ノ周圍（墓地ト墓地ニ非ラサル地トノ境界ヲ云フ）ニハ樹木ヲ栽ユヘシ

墓地ノ內ニハ壹丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限リニアラス

第七條　墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第八條　火葬場ヲ新設廢止若クハ其區域ヲ伸縮セントスル場合ニ於テハ第一條但書ノ手續ニ從フヘシ

第九條　火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防ノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニテ人家隔絕ノ場所ナルトキハ格別ナリトス

第十條　火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第十一條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリトス

第十二條　墓地及火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ所轄警察署又ハ分署及戶長役場ニ屆置クヘシ

第十三條　死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ別文ヲ刻セサル墓標ハ警察署ニ出願許可ヲ受クルノ限ニアラス

但別表ハ第三號書式ニ從ヒ出願スヘシ

第十四條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ自己ノ屆書ニ主治醫ノ死亡屆書

チ添ヘテ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受ケルノ猶豫ナク死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案書ヲ乞ヒテ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ケ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死產證ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

四徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出シ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

第十五條　戸長前條ノ屆書證書ヲ領收シタルトキハ第四號書式ニ從ヒ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘシ

第十六條　改葬ヲナサントスルモノハ第五號書式ニ做ヒ地元戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ出願許可ヲ受ケ管理者ニ其正本ヲ示シ寫ヲ差出スモノトス

第十七條　管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戸長ノ認許證ヲ編纂シ第六號書式ノ屆書ニ添ヘ毎三ケ月（三月、六月、九月、十二月）所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十八條　管理者ハ墓地ノ繪圖及第七號書式ニ做ヒ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第壹號雛書式　用紙半紙貳通以下倣之

墓地又ハ（取廣）
火葬場（新設）願

何國郡町（村）字番地

一地目反別若干　官有地拂下ヲ請フトキハ相當代價ヲ付スヘシ

右ハ私共町（村）（墓地、火葬場）（無之）（或ハ從來何地ニアルモ）（衛生上害アリ）（若クハ何々ノ事故ニテ）實際差支候ニ付前記ノ地所ヲ以テ（眞地取廣メ）（又ハ新設仕度候間）（前書ノ代價ニテ御拂下被成下度）別紙圖面（縱橫間數人家及ヒ飮料水ノ距離ヲ記入シ隣地ノ景狀ヲ色分記載スヘシ）相添此段奉願候也

年　月　日　縣國郡町（村）總代　氏　名　印

縣令（又ハ郡長）宛

前書願出ニ付調查候處相違無之ニ付奥書調印候也

戸長　氏　名　印

第何番衛生區衛生委員　氏　名　印

第二號書式

墓地又ハ（廢止）
火葬場（取狹メ）願

何國郡町（村）字番地
一墓地（火葬場）反別若干
右ハ私共町（村）方從來ノ（墓地又ハ火葬場）（衛生上害アリ）（又ハ何々ノ事故ニテ）
（實際差支候ニ付廢止）（又ハ前記ノ反別取狹メ）ノ上素地ニ復シ度別紙圖面相添此
段奉願候也

年　月　日

縣　令　宛

前書之通願出ニ付調査候處相違無之ニ付奥書調印候也

戸長　氏　名　印

第何番衛生區衛生委員
氏　名　印

縣國郡町（村）

氏　名　印

第三號書式

碑表建設願

縣國郡町（村）番地身分

氏　名

右ハ祖先又ハ親戚若クハ舊友某何所何墓地ニ埋葬有之處今般該墓地ヘ（又ハ某ノ
事蹟ヲ表スル爲メ）墓地外何所ヘ（）別紙碑表建設致シ度候間此段奉願候也

年　月　日

右

氏　名　印

警察署長　宛

前書之通願出ニ付調査候處相違無之ニ付奥書調印候也

戸長

氏　名　印

碑表　縱　何尺何寸
　　橫　何尺何寸

誌銘傳贊等其碑表ニ刻スル全文ヲ表裏左右ヲ別テ記載スヘシ

第四號書式

埋（火）葬認許證

病名（死産ハ此項ヲ除ク妊娠何ケ月以上ノ胎兒ト記スヘシ）

縣國郡町（村）番地身分

氏　名

何年月日何時死亡(死産)
右埋(火)葬認許候也

年　月　日

右町(村)地或ハ何町(村)
戸長　氏　名　印

第五號書式

改葬願

縣國郡町(村)番地身分
民　名

年　齡

右ハ祖先又ハ親戚某何所何墓地ニ埋葬有之候處今般何々ノ故ヲ以テ何所ニ改葬仕度候間此段奉願候也

年　月　日

右　氏　名　印

警察署長(又ハ分署長)宛

戸長　氏　名　印

前書之通願出ニ付奥書調印候也

第何番衛生區衛生委員

第六號書式(何年何月ヨリ何月マテ)埋葬及火葬認許證檢閱願

縣國郡町(村)番地身分
民　名

年　齡

何月何日埋葬

何月何日火葬

合計何人內(何人埋葬)(何人火葬)

右之通ニ候條御檢閱被下度別紙認許證何通相添奉願候也

年　月　日

縣國郡町(村)何墓地又ハ何火葬場
管理者
氏　名　印

警察署又ハ分署長宛

第七號書式

墓籍

縣國郡町(村)番地身分
氏　名

年　齡

何年月日何時埋葬又ハ火葬
或ハ何所ヨリ改葬ニ付住所氏名

仝

○第二十章　郡長及戸長職務ニ關スル事項

○郡區町村編制法　（明治十一年七月二十一日）
○太政官第拾七號　輪廓付

郡區町村編制法左之通被定候條此旨布告候事

第一條　地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條　郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條　郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トナス（東西南北上中下某郡ト云カ如シ）

第四條　三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス

第五條　每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クノ又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條　每町村ニ戸長各一員ヲ置ク

但區內ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼スルコトヲ得

第七條　此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルコトヲ得

第八條　地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スル事ヲ得

第九條　第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ內務卿ノ認可ヲ受クヘシ

○郡治分畫及郡役所位置

○丙第百貳拾三號　（明治十一年十二月二日）

本年太政官第拾七號公布ニ依リ從前ノ大小區畫ヲ廢シ郡治分畫及郡役所位置左ノ通相定候條此旨布達候事

郡治分畫　　郡役所位置

常陸國東茨城郡　茨城郡　水戸

常陸國西茨城郡　茨城郡　笠間町

常陸國那珂郡　那珂郡　菅谷村

十三年四月第四號布告追加ノ面

以下同斷ノ面

常陸國久慈郡　久慈郡役所　太田村
常陸國多賀郡　多賀郡役所　高萩村
常陸國眞壁郡　眞壁郡役所　下館
常陸國鹿嶋郡　鹿嶋郡役所　鉾田村
常陸國行方郡　行方郡役所　麻生村
常陸國新治郡　新治郡役所　土浦町
常陸國筑波郡　筑波郡役所　谷田部町
常陸國信太郡　信太郡役所　江戸崎村
常陸國河內郡　河內郡役所　信太郡
下總國西葛飾郡　西葛飾郡役所　猿嶋郡
下總國猿嶋郡　猿嶋郡役所　境町
下總國結城郡　結城
下總國岡田郡　岡田郡役所
下總國豐田郡　豐田郡　本宗道村
下總國北相馬郡　北相馬郡役所　北相馬郡　取手宿

○郡長ニ於テ便宜施行ノ事項

○茨城縣令甲第六號（明治十九年八月三十日）

今般勅令第五拾四號ヲ以テ地方官官制被定候ニ付テハ郡長ニ於テ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得ル事項左ノ通相定ム

一　國稅地方稅備荒儲蓄金及町村費不納者處分ノ事
二　徵兵取調ノ事
三　逃亡死亡絕家ノ財產處分ノ事
四　官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事
五　電線道路田畑水利ニ障碍アル官有樹木ヲ伐採スル事
六　河岸地借地檢查ノ事
七　印紙賣捌願ノ事
八　學校資金ノ事
九　地方稅支弁ニ係ル道路堤防急破修繕ノ事
十　（十九年令甲第貳拾貳號ヲ以テ削除）
十一　地券書換願ノ事
十二　社寺什物取締ノ事
十三　縣社以下幷ニ寺院內枯損竹木伐採及竹木栽培願ノ事
十四　度量衡檢查ノ事
十五　諸貸下金徵收處分ノ事

右ノ外法律命令ヲ以テ委任セラレタル事項及知事ヨリ特ニ分任スル事項

○郡長特任條件

○茨城縣令甲第七號（明治十九年八月三十日）

縣廳ノ事務自今郡長ヘ左ノ通委任ス

郡長特任條件

一　郡書記以下歸省並除服達ノ事

二　戶長及町村立學校職員歸省並除服達ノ事

三　郡書記以下管內出張巡回ノ事

四　郡役所雇員及小學校補助員進退ノ事

五　縣社以下ノ神官並寺院住職族行屆ノ事

六　神社祭典寺院法會並開扉願ノ事

七　町村會開閉屆ノ事

八　町村會聯合町村會水利土功會ノ諸報告ヲ受理スル事

九　町村費ニ係ル寄附願ノ事

十　町村費ニ係ル堤防道路橋梁樋管用惡水路等町村ニ關係スル普請願ノ事

但新設又ハ舊体ヲ變更スルモノハ此限ニアラス

十一　道路掃除丁場分定及取締ノ事

十二　並木取締及苗木植繼ノ事

十三　水防水配ヲ便宜指揮スル事

十四　開市場願ノ事

十五　牛馬疫豫防法施行ノ事

十六　按摩揉療治開廢業屆ノ事

十七　備荒儲蓄金徵收及免除ノ事

十八　罹災ノ窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料給與並地租補助願ノ事

十九　賦金徵收及怠納者處分ノ事

二十　救荒蓄穀ニ關スル事

廿一　無告ノ窮民ニ五十日以內恤救ノ事

廿二　戶籍ニ關スル願伺屆ノ事

但士族編入願及亡兄ノ遺妻ト結婚願ハ此限ニアラス

廿三　改姓名願ノ事

廿四　藝娼妓ノ爲メ他府縣ヘ出稼添輪願ノ事

廿五　內國難破船及漂流物處分ノ事

廿六　立船營業願ノ事

廿七　日本形船測度檢查ノ事

廿八　官有地ニアル民有ノ建物賣買讓與並書入證書與書願ノ事

十九年令甲第貳拾貳號更正ノ面

廿九　文明十八年以後創立ニ係ル社寺境内地下渡願ノ事
三十　壹反歩以下ノ官有草生芝生地荒生地藪地荒地等拜借願ノ事
但川添地立木地並官林ニ接スル地所ハ此限ニアラス
卅一　官有ノ池沼養魚場ノ爲メ原形ノ儘拜借願ノ事
但用水ニ關係スルモノハ此限ニアラス
卅二　地租改正以前ヨリ人民ノ埋葬シ來リクル官有墓地ヲ民有墓地ニ組換ヘ願ノ事
卅三　耕宅地ニアラサル民有地ヲ共葬墓地並火葬場ニ新設及既設ノ墓地火葬場廢止願ノ事
卅四　公上民有地ヲ避病院敷ニ撰定シ及既設ノ敷地ヲ廢スル事
卅五　公上民有地ヲ獸畜埋場ニ新設及既設ノ埋場廢止願ノ事
卅六　官有地盜誤伐木公賣及倍償ノ事
卅七　官有地ノ雜産物拂下願ノ事
卅八　官有地ニ係ル社寺境内地特ニ撿定ノ個所ヲ一時貸渡及料金徵收ノ事
卅九　民有地ノ河岸場開設願撿査ノ事
四十　陸軍火藥用ノ爲メ官地ノ水揚木賣却ノ事
四十一　地租代米納及預リ米願ノ事
四十二　延納年賦一時上納願ノ事

已下十令甲第貳號刪除追加ノ面

四十三　船車ニ關スル諸願届ノ事
○四十四　烟草菓子酒麴並牛馬賣買營業願ノ事
四十五　○賣藥請賣並行商願ノ事
四十六　自家用料酒類製造届ノ事
四十七　地方稅ニ關スル諸營業願届ノ事
四十八　金額拾圓以内ニ係ル郡廳舍修繕ノ事
四十九　金額拾圓以内ニ係ル郡役所ノ不用物賣却ノ事
五十　國稅及地方稅備荒儲蓄金不納處分ニ係ル官沒物件公賣ノ事
五十一　地方稅徵收ノ事
五十二　棄兒養育及迷兒處分ノ事
五十三　職遊獵銃願ノ事
五十四　（十九年令甲第四拾壹號ヲ以テ刪除）
五十五　官地拜借及堤塘使用繼年季願ノ事
五十六　水車建設願ノ事
五十七　新規地券下與ノ事
○期限調物取扱順序
○丙第九拾貳號　（明治十年十一月一日）

期限ヲ以テ調理スヘキノ事件従来扱所ヘ相達候處愆期有之ノミナラス其甚シキニ至テハ延期ヲモ申請セス等閑打過候向往々有之不都合不勘ニ付今般期限物取扱順序左ノ通相示シ候條右ニ準シ事務可取扱此旨相達候事

期限調物取扱順序

一縣廳及警察署其他官吏派出先ヨリ日限ヲ以テ調理ヲ達スル事件又ハ前以テ達シタル限期モノハ扱所ニ於テ掲ケ札ヲ設ケ置キ書記ヲシテ其件銘并到達ノ月日主務ノ姓名及差出ス期日ト其課名或ハ掛名等ヲ登記シ之レヲ區長ノ傍ラニ掲クルモノトス

一區長ニ於テハ期限二四日前各主務ニ就キ其事務ヲ督促シ速ニ進達スヘシ若不得已シテ延期ヲ申請セシモノハ其限日モ又掲ケ札ニ登記シ再ト愆期ナキヲ要スヘシ

但區長不在又ハ病氣等ニ際セハ代理ノ戸長之レヲ掌トル

一期限調揭ケ札ハ(丈四尺巾一尺余)板貳枚ヲ新製シ之レヲ黒塗ニシ朱墨又ハ白墨ヲ以テ記載スルモノトス

○戸長職務取扱心得書

○丁第壹號　(明治十二年一月十日)

町村戸長

區戸長村市長

五百二十四

十二年二月丙第七號ノ更正面

戸長職務取扱心得書別紙之通候條右ニ照準事務可取扱此旨相達候事

戸長職務取扱心得書

第一條

一布告布達ハ總テ縣廳ヨリ郡役所及ヒ町村戸長ヘ直ニ配布スヘキニ付到達ノ上ハ速ニ町村内ヘ無遺漏回達シ又掲示スヘシ

第二條

一地租及ヒ諸稅ハ納期ヲ愆ラサル樣取纏メ上納スヘシ

但上納手順ハ追テ可相達事

第三條

一受持村町内ノ戸籍ヲ整置シ右ニ屬スル届出ノ事件ハ其都度遺漏ナク増減ヲ加除シ翌月五日限リ前月分悉皆ノ加除届ヲ製シ所屬郡役所ヘ差出スヘシ

第四條

一徴兵下調ハ別冊手續書ノ通取扱フヘシ

第五條

一地所建物船舶質入書入幷賣買讓渡公證願出ルトキハ明治十年二月乙第三拾壹號縣廳達手續書ニ準シ地券臺帳地價一筆限帳幷地引帳等精密調査シ公證ヲ與フヘシ

但割印帳記載帳其各町村限リ編製シ奥書證印ハ戸長ノ實印ヲ押シ割印ハ戸長役

五百二十五

場印ヲ用ユヘシ

第六條

一迷子アルトキハ生所取調其原籍ヘ引渡シ其時々處管警察署ヘ届出ヘシ若原籍不判然ノトキハ郡役所ヘ具申シ指揮ヲ乞フヘシ

第七條

一捨兒アルトキハ速ニ警察署ヘ届出檢分ヲ受ケ生所取調不分明ナレハ拾揚人ヱ預ケ置引受養育ヲ願フ者アレハ其實況養育人姓名等詳細郡役所ヘ具狀シ官費養育ヲ願フ者アレハ本人願書ニ其實況ヲ具サシメ奥書ノ上郡役所ヘ出ズヘシ

第八條

一行旅病人變死人其他事變アルトキハ所管警察署及ヒ郡役所ヘ届出指揮ヲ受取計フヘシ

第九條

一天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下困窮凍餒ニ迫ル者アルトキハ其實況及ヒ姓名家族人員年齡財産等詳細取調速ニ郡役所ヘ具狀スヘシ

第十條

一孝子節婦其他篤行ノ者アルトキハ明治八年第貳百七拾六號縣廳達ニ準シ郡役所ヘ具狀スヘシ

第十一條

一町村内ノ幼童男女滿六歳ニ至レハ必ス就學セシメ若シ入校ナリ難キ事故アル者ハ其事由ヲ記載シ郡役所及ヒ學區取締ヘ通牒スヘシ

但就學不就學ノ者ヲ調査シ毎年一月ヨリ六月迄ノ分ヲ七月十日同月ヨリ十二月迄ヲ翌年一月十五日限郡役所ヘ届出ツヘシ

第十二條

一町村内人民印形簿ハ質入書入金錢貸借及ヒ其他ニ付照合取扱フヘキ者ニ付明瞭整備スヘシ

第十三條

一諸帳簿ハ總テ明細ニ編製シ常ニ錯雜等ノ弊ナキヲ要スヘシ

第十四條

一官費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スヘキモノニ付利害アルトキハ其事實詳細郡役所ヘ具狀スヘシ

第十五條

一筆生ノ父母重病歸省旅行等ノ願ヲ允許シ及ヒ免忌スヘシ

戸長職務取扱心得付錄

第一條

十五年六月丙第三十七號改正ノ面

一受持町村内ノ人民願伺届ハ其事實ヲ糺シ總テ成規ニ依リ奥書調印スヘシ

第二條

一諸願伺届ノ中萬一成規ニ觸レ不都合ト認ムルトキハ奥書調印ノ上別ニ異見書ヲ詳記シ郡役所ヘ差出スヘシ

戸長奥書書式

前書ノ通（願伺届）出候ニ付調印仕候也

年　月　日

戸長　何　誰　印

十五年七月丙第一號ノ增加ノ面

○戸長事務受渡規則

○丁第拾三號　（明治十二年十月二十七日）

町村戸長事務受渡規則左之通相定候條右ニ照準可取計此旨相達候事

戸長事務受渡規則

第一條

一凡ソ戸長轉免等ノ際受渡ノ手續ハ在職中ノ事務及着手中ノ事件或ハ後來ノ見込等ヲ詳記セル演說書ヲ作リ筆生又ハ新任戸長ヘ引繼受渡ノ證書ヲ交換スヘキ事

第二條

一布告布達及諸達書ノ類ハ其番號ヲ逐ヒ目次ヲ付シ引渡スヘキ事

十五年一月丙第七號增加ノ面

第三條

一地租諸稅賦金等取立方既納未納ノ内譯ヲ明瞭ニシ仕譯書ヲ製シ其事由ハ演說書ニ詳記引渡スヘキ事

第四條

一溝河ヲ疎通シ堤防ヲ築キ水害ノ豫防ヲナシ或ハ新道ヲ開キ嶮路ヲ鑿シ橋梁ヲ架シ荒蕪ヲ開墾シ勸業ノ法ヲ設ケ后來國家ノ鴻益トナルノ見込又ハ協議着手竣功ニ至ラサル等ノ如キ各其順序利害得失ノ考案費用計算是亦演說書ニ詳記シ引渡スヘキ事

第五條

一町村會ニ關スル書類ノ類別ノ上目錄ヲ以テ引渡スヘキ事

第六條

一戸籍簿ヲ始メ其他一切ノ諸帳簿ハ悉皆目錄ヲ以引渡スヘキ事

第七條

一社倉金穀幷町村費ハ其收入仕拂ヲ明瞭ニシ仕譯書ヲ添ヘ米金引渡スヘキ事

但金穀等ハ該仕譯書ヲ以其現品突合差違ナキヲ見認メ筆生又ハ新任戸長之ヲ受繼クヘシ

第八條

十五年一月丙第七號改正ノ面
十五年二月廿一日正誤ノ面

一共有物ノ種類ハ其性質ヲ區別シ演説書ニ詳記引渡スヘキ事

第九條

一聯合町村ニ從來附屬スル一切ノ器具ハ無遺漏目錄ニ擧ケ引渡スヘキ事

第十條

一受渡ノ節ハ役場筆生ハ勿論該聯合町村人民總代貳人以上立會ノ上取計フヘキ事

第十一條

一受渡濟ノ上ハ其趣證書ヲ相添受取タル者ヨリ該郡役所ヘ届出ツヘキ事

第十二條

一筆生欠員等ニテ難引繼場合ニ於テハ新戸長拜命ノ翌日ヨリ遲クモ七日以内ニ引繼クヘシ若シ期日外ニ渉ルトキハ其事由ヲ詳記シ新舊戸長連署該郡役所ヘ届出ツヘシ

但引繼中ハ爲手當明治十三年乙第百拾貳號給料規則第二條ニ照準日割ヲ以テ支給スヘシ

◎既決犯罪表調製及警察署ヘ通知

○丙第九號ヲ以(明治十五年一月二十六日)

一戸長

刑事裁判ノ宣告犯人本貫ヘ通知之儀司法省丁第三拾二號ヲ以テ別紙ノ通裁判所ヘ達

相成候條該表ニ倣ヒ既決犯罪表ヲ編製シ戸長役場ニ備置キ檢事ヨリ報知ノ都度記入シ十日毎ニ所管警察署又ハ分署ヘ通知可致此旨相達候事

○丙第拾八號

刑事裁判ノ宣告犯人本貫ヘ通知ノ儀裁判所ヘ別紙丁第三拾三號ノ通相達候條此旨爲心得相達候事

明治十四年十二月十九日

府縣

司法卿大木喬任

○丁第三十三號

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍ヘ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事

明治十四年十二月十九日

裁判所

司法卿大木喬任

刑事裁判言渡アリタルトキハ治罪法第四百六十四條ニ揭ケル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致スヘシ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ

犯罪人ノ前科取調ヲ要スルトキハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致スヘシ

既決犯罪表

何裁判所

イ號目錄

イ號目		
一丁	伊藤某	
二丁	生駒某	
三丁	飯塚某	

何裁判所既決犯罪表

イ號

氏名	○伊藤某
年齢	○何年何月
職業	○何々
住所	○何府何郡何町何縣何區何村
出生ノ地	○仝上
本籍	○仝上
罪名	○竊盜
刑名	○重禁錮何年（或ハ何月）
犯數	○初犯（或ハ再犯）
裁判言渡ヲナシタル年月日	○何年何月何日
對審闕席區別	○對審裁判（或ハ闕席裁判）

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタルトキ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス

但一葉一人ヲ記載シ（イロハ）ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便スヘシ

表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ（日）以下モ之ニ準スヘシ

○民事裁判所人民呼出狀脚夫賃役場費ヲ以テ操替不相成

○丙第二十四號（明治十五年三月三十一日）

戸長役場

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫賃錢及赤貧者被告トナリ喚問旅費ノ儀ハ一時役場費ヲ以テ操替候向モ有之哉ニ候處自今一切不相成旨其筋ヨリ相達サレ候條此旨相達候事

○行政官服務紀律

○丙第五拾四號（明治十五年八月二十八日）

戸長

今般太政官第四拾四號行政官服務紀律別紙之通被相達候條爲心得此旨相達候事

○第四拾四號

官省院廳府縣

行政官吏服務紀律左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十五年七月二十七日

太政大臣三條實美

行政官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ法律及職制章程ニ從ヒ各其職ヲ盡スヘシ

第二條　凡ソ官吏ハ太政大臣又ハ本屬長官ヨリ下ス所ノ達示ヲ循守スヘシ

第三條　所屬官ハ事ヲ本屬長官ニ受ケ其命ニ順ヒ職務ヲ執行スヘシ

第四條　凡ソ官吏ハ職務ノ內外ヲ論セス廉耻ヲ厲マスコトヲ務ムヘシ

第五條　官吏官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ得ス其職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同樣タルヘシ

第六條　官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ論セス本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第七條　官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

第八條　官吏他人ノ請托ヲ受ケ私ニ拘ヘ公ヲ亂ルコトヲ得ス

第九條　官吏本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職役ヲ離ルヽコトヲ得ス及事ニ托シ疾ヲ引キ職事ヲ曠廢スルコトヲ得ス

第十條　官吏前ノ各條ニ違ヒ顯狀アル者ハ本屬長官其輕重ニ從ヒ旨ヲ諭シ職ヲ辭セ

シメ又ハ懲戒例ニ依リ處分スヘシ其功過相補フヲ以テ處分ヲ宥恕スヘシト認ムル者ハ本屬長官其情狀ヲ具シ太政大臣ニ上申シテ量定ヲ請フヘシ

第十一條　長官ハ各所屬官ヲ撿察スルノ務ニ任スヘシ

第十二條　臨時巡察使ヲ派出シテ官吏ノ治績及功過ヲ撿察シ狀ヲ具シテ直ヲニ太政大臣ニ上申セシムヘシ

○刑事書類送達費役場費ヲ以テ採替不相成

○丙第拾七號　（明治十六年二月十七日）

郡　役　所
戸　長　役　場

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類送達ノ節戸長役場費ヲ以使丁ヘ送達賃採替相渡候儀自今不相成此旨相達候事

但從前ノ指令等本文ニ抵觸ノ廉ハ取消ス

○丙第貳拾九號　（明治十六年四月十六日）

戸　長

戸長提燈印ノ儀去ル明治十二年丙第貳拾六號ヲ以相達置候處自今明治三年正月十二日公布提燈徽章中判任官同樣ノ印可相用且官記式及ヒ印章幷新年紀元天長節賀表差出方等是又判任官同樣タルヘシ尤印章幷賀表式ノ儀ハ所轄郡役所ヘ可承合此旨相達候事

但商賈營業ノ儀ハ明治八年四月第六拾五號公達第一條但書之通

（參看　明治八年四月第六拾五號第一條及但書ハ左ノ通リ）

第一條　凡ソ官吏タルモノ並ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生產ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事

但神官教導職區戸長郵便取扱人學區取締役及ヒ等外吏ノ分ハ此限ニアラス

○丙第四拾六號　（明治十六年六月十三日）

戸　長

本年（四月）丙第廿九號ヲ以相達置候儀ニ付諸祭日遙拜等ハ其役場ニ於テ適宜執行可致且歲末御祝祠名刺ハ三大節賀表同樣縣令宛ヲ以所管郡役所ヘ可差出此旨相達候事

○賀表式

○茨城縣令丙第貳拾六號　（明治十九年十月五日）

郡　役　所

今般宮內省達第拾貳號ヲ以テ新年紀元節天長節賀表書式改正セラレ候ニ付郡書記戸長小學校訓導非役正七位以下勳七等以下之者賀表書式左之通認メ（戸長小學校訓導非役正七位以下勳七等以下ノ者ハ郡役所ニ於テ之ヲ取纏メ）縣廳ヘ差出スヘシ

但戸長小學校訓導帶勤者ヘハ達方取計フヘシ

用紙美濃紙

謹奉賀新年 紀元節 天長節	謹奉賀新年 〃〃〃	
何郡書記何ノ誰 年月日 〃〃〃 〃〃〃	何郡何村外何ケ村戸長何ノ誰 年月日	
	何小學校何等訓導何ノ誰 年月日	謹奉賀新年 〃〃〃 位勤何ノ誰 年月日

○法律規則實施ノ景況等視察ノ爲メ臨時屬官派遣

○丙第九拾號（明治十六年十月八日）

郡役所

戸長役場

法律規則實施之景況幷ニ事務之擧否利獎等視察ノ爲メ臨時屬官ヲシテ各郡役所戸長役場等ヘ派遣其帳簿ヲ實檢シ又ハ事務上ニ就キ質議セシメ候條此旨相達候事

○數町村ヲ所轄スル戸長役場ヲ廢止

○丙第四拾九號（明治十七年九月六日）

郡役所

戸長役場

數町村ヲ所轄スル戸長役場ト雖モ其部内ノ町村名ヲ列揭シ何町村々々ヲ戸長役場ト稱スルハ勿論ニ候所其聯合町村ノ多キハ列揭不便ナルニ付三ケ町村以下ノ聯合ハ之ヲ列揭シ四ケ町村以上ニ渉ル聯合ハ役場所在ノ町村名ヲ揭ケ何町村外何ケ町村戸長役場ト稱スヘシノ此旨相達候事

○戸長役場監査規程

○丙第拾九號（明治十七年二月十八日）

戸長

戸長役場監査規程別紙之通相定候條此旨相達候事

戸長役場監査規程

第一條　派出監査員ハ郡長ノ命令ニ據リ各戸長役場ニ就キ收入經費其他ノ公金幷物品出納ノ實況及ヒ職務取扱ノ順序諸簿冊ノ整否其他一切ノ事務上ニ就キ監査スヘシ

第二條　監査員ハ每年一回以上臨時ニ派出スルモノトス

第三條　派出監査員ハ現金檢查ノ事ヲ明記セル印鑑ヲ携帶スヘシ之ヲ携帶セサルモノハ現金檢查ヲ爲スヲ得ス

第四條　派出監査員ハ左ノ條件ヲ審問檢查スヘシ

第一項　税金其他諸收入金徴收上緩漫ナキヤ

第二項　經費仕拂方成規例格ニ背カサルヤ

第三項　經費仕拂方濫出ノ弊ナキヤ

第四項　諸收入金送納方其規則ニ背カサルヤ

第五項　金錢物品ノ出納及ヒ管守ノ方法

第六項　金錢物品ノ諸帳簿及ヒ證書諸計表ノ整否及ヒ管守方

第七項　收入經費外ノ公金受拂ノ景況

第八項　布告布達類聯合人民周知セシムルノ遲速及ヒ其方法ノ良否

第九項　町村會ノ景況及ヒ未設ノ事由

第十項　諸進達等ノ期限ヲ後場ニ掲記シ徳期ノ患ナカラシムルヤ

第十一項　戸籍簿ノ整否又異動ハ其都度登記シ常ニ明瞭ナラシムルヤ

第十二項　公證割印ハ成規ニ依リ取扱輕忽ニシテ重復等ノ患ナキヤ及ヒ其管守方

第十三項　戸長他行等ノ節ハ出願又ハ屆出ノ手續ヲ爲スヤ否

第十四項　出勤簿ノ整否

第五條　派出監査員ハ檢査上諸帳簿ノ誤謬若クハ例規ニ觸ルヽト看認ルトキハ直ヤニ訂正セシムルヲ得ルト雖ヒ事ノ重大ニ渉ルモノハ其意見ヲ具シ郡長ノ裁決ヲ受ケシムヘシ

第六條　派出監査員ハ檢査上左ニ掲ケル場合ニ於テハ始末書及ヒ其他必要ト思惟スル書類ヲ徴シ之レニ意見書ヲ付シ速ニ郡長ニ稟申スヘシ但時宜ニ依リ該部ノ檢査ヲ中止シ一時歸廳スルヲ得

第一項　戸長其他職務上專斷ノ措置アルトキ

第二項　第四條ノ各項中事ノ民情ニ關シ又ハ私罪ニ該ルモノアリト思料シタルトキ

第七條　派出監査員ハ經費ノ殘餘金及ヒ收入金納付又ハ他ニ拂出モノアルトキハ速ニ納付若クハ拂出サシムルモノトス

第八條　金錢出納ノ事務執行上取惑ヒノ廉アリテ質問ヲ受ケタルトキハ成規令達等ニ據リ事理明瞭ナルモノハ監査員ノ資格ヲ以答示スルヲ得

第九條　派出監査員ハ時宜ニ依リ町村限リニ成立タル協議費及土木費ノ收支ヲ檢査スルヲ得

第十條　前各條ノ外監査ヲ要スルモノアルトキハ郡長ノ裁決ヲ受ケ之ヲ監査スヘシ

第十一條　派出監査員歸廳ノ上ハ檢査ノ實況ヲ詳悉シタル書面ヲ以復命スルモノトス

○酒造税則等犯則者證憑取調ヲナスノ節立會

○丙第三拾九號（明治十七年三月三十一日）　戸長役場

酒造稅則醬麴營業稅則賣藥印紙規則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知若クハ思料シ其場所ニ立入證憑取調ノ處分ヲ爲ストキ自今該地ノ戶長ヲシテ立會セシメ候條此旨相達候事

但シ時宜ニ依リ隣佑ノ立會ヲ要スル儀モ可有之此旨豫テ心得置クヘシ

○諸稅檢查ノ際立會

○丙第四拾貳號　（明治十七年四月二日）　戶長役場

煙草印紙稅幷賣藥印紙稅其他諸稅檢查ノ際主任官吏ヨリ該營業者等ニ就キ立會ヲ要スルトキハ其立會ニ應シ不都合無之樣豫テ心得ヘシ此旨相達候事

○戶長ニ屬スル筆生書記ト改稱

○乙番外　（明治十七年六月十九日）　郡役所

戶長ニ屬スル筆生自今戶長役場書記ト改稱候條此旨相達候事　戶長役場

（編者曰　戶長役場ノ書記進退ノ儀十七年六月四日乙番外ヲ以テ內達アリ參考ス可シ）

○戶長役場退出時限后ト雖モ事務取扱方注意

○乙番外　（明治十七年八月四日）

戶長役場ニ於テ出勤退出時限ヲ定メ候儀ハ素ヨリ不苦候得共人民ノ願伺其他出頭ノ節退出時限後ハ都テ取扱ハサル向儘有之哉ニ相聞是カ爲メ至急ヲ要スル事件又ハ遠隔ノ地ヨリ出頭セシ者等ニシテ自然支障ヲ釀シ難澁候樣ニテハ甚タ不都合ノ儀ニ有之候條縱令時限後ト雖モ可成人民ノ便宜ヲ旨トシ事務取扱方注意可致此旨諭達候事

○丙第五拾壹號　（明治十七年四月二十五日）　戶長

役場本縣在籍之者ニシテ譽視廳ヘ巡查志願之向ハ自今別紙雛形ニ據リ身分證書差出筈ニ付事實調查ヲ遂ケ相違無之候ハヽ奧書ヲ與フル儀ト可相心得此旨相達候事

身分證書式

茨城縣何郡何町（村）何番地族籍

戶主（又ハ二三男養子）　何　某

生年月日　年號干支何年何月何日生　何年何ケ月

兵役	有（アルトキハ徴兵適齢又ハ豫備後備等ノ兵籍ヲ記スヘシ） 無
罰科	仝（アルトキハ其罪名等ヲ記スヘシ）
身代限	仝（アルトキハ其義務ヲ終ヘタルヤ否記スヘシ）

年　月　日

右之通相違無之ニ付奥印候也

年　月　日　　右　何　某　實　印

○看守身分證書奥書

茨城縣何郡何町（村）聯合
戸長役場
戸長　何　某　印

○乙第五拾號（明治十八年五月四日）

本縣在籍之者ニシテ警視廳巡査志願ノ向身分證書ヘ奥書差出方之義ニ付明治十七年丙第五拾壹號ヲ以テ達置候處看守ニ在テモ右同樣可取扱此旨相達候事

○稅則違犯者請懲物件保管

○乙第五拾二號（明治十八年五月十三日）

郡役所
戸長役場

五百五十四

諸稅檢查員ニ於テ稅則違犯者ヲ發見シ請懲物件差押ヘタルトキハ時宜ニヨリ其地ノ戸長ヘ保管方可及照會候條適宜保管可執行此旨相達候事

但十五年十二月丙第八拾號達ハ廢止ス

○戸長役場金錢收支順序

○乙第七拾貳號（明治十八年七月四日）

戸長役場

金錢收支順序別冊之通相定候條右ニ準據取扱フヘシ此旨相達候事

但明治十六年（八月）丙第七拾五號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

金錢收支順序

第一條　凡ソ金錢ハ戸長之ヲ監守シ戸長不在ナルトキハ書記之ヲ管守スヘシ

第二條　金錢ノ收支ハ役場員外ノ者ヲシテ取扱ハシムルヲ得ス

第三條　年度若シクハ稅名費途ノ異ナルモノハ互ニ混用スルヲ得ス

第四條　役場費ノ外他ノ金錢ヲ以テ一切繰換ヲ爲スヲ得ス

但繰換ヲ爲スハ縣令若シクハ郡長ノ達シアルモノ又ハ特ニ許可ヲ得タルモノニ限ルヘシ

第五條　役場費ヲ以テ繰換タル金錢ハ速ニ郡長又ハ各處ニ申請若シクハ照會シ償還セ

五百五十五

第六條　各所ニ納付若ハ下付スヘキ金錢ハ五日以内ニ結了スヘシ

但別段ノ成規アルモノハ此限ニアラス

第七條　金錢納拂ニ係ル領收證書ハ稅名費途ヲ區分シ一週年度毎ニ編冊保管スヘシ

第八條　金錢出納上ニ用ユル簿名及其記載方ノ要領ヲ示スヿ左ノ如シ

但別段ノ制規アルモノハ此限ニアラス

第一項　年度戶長以下給料旅費內譯簿

本簿ハ戶長以下給料旅費ノ豫算及收支ヲ詳悉揭載スルモノニシテ郡役所ノ部ハ豫算ヲ元受ノ部ハ收支ヲ總括揭載スル處ナリ故ニ郡役所ヨリ豫算ノ達ヲ得レハ其總額ハ郡役所ノ部豫算ノ區ヘ記入シ之ヲ細別シテ各科目ノ豫算ノ區ヘ記入スヿ金圓ヲ受領スレハ其都度郡役所ノ部ハ元受ノ部ハ受ノ區ヘ記入シ各科目支出ノ金圓ハ之ヲ拂ノ區ヘ其總括ヲ元受ノ部拂ノ區ヘ記入シ日々差引殘高及ヒ締高ヲ顯記スヘシ又豫算ニ增減アレハ增ハ黑書減ハ朱書ニテ記入スル等別式ノ如シ

第二項　年度町村費內譯簿

本簿ハ町村費ノ豫算及ヒ收支ヲ詳悉揭載スルモノニシテ町村會ノ部ハ豫算ヲ元受ノ部ハ收支ヲ總括揭載スル所ナリ故ニ町村會ノ決議額ヲ認可スレハ其總額ハ

町村會ノ部豫算ノ區ヘ記入シ之ヲ細別シテ各科豫算ノ區ヘ記入シ收入ノ金員ハ其都度町村會ノ部ハ元受ノ區ヘ元受ノ部ハ受ノ區ヘ記入シ之ヲ拂ノ區ヘ其總額ヲ元受ノ部拂ノ區ヘ記入シ各科目支出ノ金員ハ年度決算報告書調製ノ基本トス又豫算額ニ增減アレハ增ハ黑書減ハ朱書ニテ記入スル等別式ノ如シ

第三項　繰替金書留簿

本簿ハ町村費ヨリ一時繰換アルニ當リ一廉毎ニ拂ノ區ヘ記入シ追テ返戻アリタルトキ受ノ區ヘ記入シ而テ當初繰換ヲ爲シタル日ニ溯リ其事由ニ朱線ヲ斜書シ以テ後日ニ至リ戻入已未濟ヲ明瞭ナラシム

第四項　一時取扱金口別簿

本簿ハ縣廳若クハ各所ヨリ人民ヘ交付スヘキモノ又ハ人民ヨリ縣廳其他ヘ納入等ノ爲メ一時役場ヲ經由スル（土木費罹災救助金電信柱敷地手當ノ類）金員ヲ遺漏ナク各金種ニ依リ類別ス其他記載方ハ繰換金書留簿ニ仝シ

第五項　町村費收入豫算簿

本簿ハ收入科目毎ニ類別シ豫算決議高ヲ豫算ノ區ヘ記入シ豫算ニ增減アルトキハ第一項ニ倣ヘ爾後納入アル毎ニ之ヲ受ノ區ヘ記入シ而シテ日々差引殘及締高ヲ顯シ納入完結ニ至リ精算報告書調製ノ基本トス

第六項　町村費收納元簿

本簿ハ地價割戸別割等ノ如キ賦課ノ科目限リ別冊ニ調製シ壹人毎ニ納額ヲ掲ケ既未納ヲ明瞭ナラシム

第七項　官地貸下料收入元簿　舊藩貸下金收入元簿

本簿ハ第七號及八號式ノ如ク野帳ヲ設ケ收入アル毎ニ記入シ該現金ハ一時取扱金ヘ收入スルモノトス

第八項　日計表

本表ハ諸收納金ヲ始メ役場ニ於テ取扱フ所ノ金錢ハ漏サス各帳簿現在高ヲ（內譯簿ハ元受差引殘一時取扱金ハ總括差引殘）移載シ役場現在スル金額科目ノ下ニ啻然ナラシムル故ニ日々出納畢レハ必ス調表シテ戸長以下之ニ認印シ順次編纂シ置クモノトス

第九條　帳簿ニ登錄スル字体ハ必ス正格ヲ要ス若シ書損誤脫等アルモ漫リニ削除補綴糊貼スルヲ許サス必ス書損スル處ノ正中ニ二線ヲ縱畫シ之ヲ消抹シ其側ニ正字ヲ記入スルヲ以テ一般正誤ノ法トス

第十條　諸收入金及受入金（臨時ノ收入ニシテ豫メ切符ヲ配付シ難キモノヲ云フ）アルトキハ第十號雛形ノ如キ甲乙接續切符ヘ登記シ之レニ勘合ノ印ヲ捺シ切斷シテ甲ハ留メ置乙ハ領收ノ證トシテ納入ニ交付スヘシ

年度戸長以下給料及旅費內譯簿

何町（村）戸長役場

郡役所

年月日	摘要	豫算一元受	締高	差引殘	摘要
十八年七月一日	豫算御達高	四〇四〇〇〇			
仝 仝	本月分諸費郡役所ヨリ受入			四〇〇〇〇	
仝 七月五日	差引殘金三百六拾四圓㊞		四〇四〇〇〇		
仝	旅費郡役所ヨリ受取			二三〇〇	
仝 八月十日	差引殘金三百六拾壹圓七拾錢㊞		四〇四〇〇〇	四二三〇〇	
仝 仝	本月分費郡役所ヨリ受取			三〇〇〇〇	
仝 仝	何々ノ事由ニ依リ豫算增額	五〇〇〇			
仝 仝	差引殘金三百三拾六圓七拾錢㊞		四〇九〇〇〇	七二三〇〇	

○ハ朱摺

俸給戸長給料

年	月	日	摘要	受拂	算	締高
			差引殘金三拾四圓			七二三〇〇
十八年	七月	一日	豫算御達高		一四四〇〇〇	
仝	仝	十七日	本月分給料戸長何某渡			三八三〇〇
仝	仝	十七日	差引殘金百三拾貳圓㊞			一四四〇〇〇
仝	八月十四日		戸長何某本月何日依願免官ニ付半月給仝人渡			六〇〇〇
仝	仝	十五日	何々ノ事由ニ依リ豫算減額		一三〇〇〇	
仝	仝	十五日	差引殘金百貳拾六圓㊞			一八〇〇〇
仝	仝	十五日	差引殘金百貳圓㊞			一二〇〇〇

元受

年	月	日	摘要	受拂	算	締高
			何々ノ事由ニ依リ豫算減額		一三〇〇〇	
			差引殘金三百拾四圓七拾錢㊞			三八七〇〇〇
十八年	七月	一日	本月分諸費郡役所ヨリ受入	受	四〇〇〇〇	
仝	仝	五日	戸長以下旅費郡役所ヨリ受入	受	二三〇〇	
仝	仝		戸長及書記旅費仕拂	拂		二三〇〇
仝	仝		差引殘金四拾圓㊞			四二三〇〇
仝	仝	十七日	戸長以下給料	拂		二三〇〇
仝	仝		差引殘金拾圓㊞			一〇〇〇〇
仝	八月	十日	本月分諸費郡役所ヨリ受入	受	三〇〇〇〇	
仝	仝		差引殘金四拾圓㊞			三三三〇〇
仝	仝	十五日	戸長何某依願免官ニ付月給	拂		六〇〇〇